

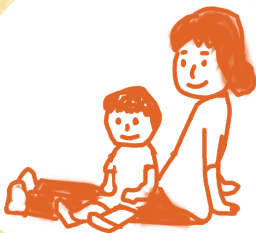
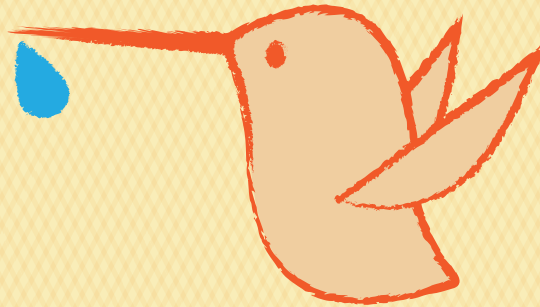
認定特定非営利活動法人

ぎふハ千ドリ基金

2023年度 助成事業 実施報告

実施期間

2023 2024
4/1 - 3/31



ぎふハチドリ基金助成事業について

ぎふハチドリ基金助成事業は、市民からの寄付金を原資に、困難を抱える子どもや若者、子育て家庭を支援する事業に対して助成しています。

創設の年の2012年度から助成を実施してきたので、2023年度助成は12年目の助成になりました。法人化前から合わせて205件の事業に対し、累計約3,311万円の助成を実施できました。

2023年度も、いただいた報告書を一部抜粋して掲載しました。各助成事業実施団体の特色が出ており、活動現場のあたたかみが伝わってくるような報告書となっております。助成事業を通して、寄付者の皆さまの思いが、地域の中の困難を抱える子ども・若者・子育て家庭のもとに届いた様子をご覧ください。

- 募集期間 2023年4月1日～5月20日
- 助成対象期間 2023年4月1日～2024年3月31日
- 助成事業の決定 2023年6月15日
- 採択証交付式 2023年6月23日
- 事業の実施報告 2024年4月10日まで

■ 2023年助成事業 助成結果

助成件数：全32件

助成総額：7,524,635円

【A-1】事業助成 全11件 合計2,599,000円

【A-2】基盤強化助成 全6件 合計906,720円

【B】利用者負担軽減助成 全6件 合計765,915円

【C-1】「こども食堂応援助成」（たんぼぼ薬局「キッズまんぷく」基金） 全3件 合計180,000円

【C-2】「交流会開催助成」（こくみん共済coop・子ども成長基金） 全3件 合計250,000円

【C-3】「広域活動助成」（東海ろうきん未来応援寄付金） 全3件 合計3,000,000円

（※【C-3】に申請し【A-1】事業助成で採択された2件の事業に充てた177,000円分を含む）

【D】たんぼぼ薬局「キッズまんぷく」基金「こども食堂応援助成」（2年継続2年目） 全3件 合計150,000円



ぎふハチドリ基金2023年度助成事業 募集要項（概要）

【A-1】事業助成 1件あたり上限50万円 総額250万円程度

さまざまな理由から困難を抱えている子ども・若者・子育て家庭が、自分らしく、安心して暮らせるよう、地域で支える取組みに対して、必要な費用を助成します。

<対象事業>

- (ア) 「子どもの貧困」対策（貧困の連鎖を断ち切る）事業（イ）困難を抱えた子どもを支援する事業
- (ウ) 困難を抱えた若者を支援する事業（工）困難を抱えた子育て家庭を支援する事業
- (オ) その他、子どもや若者をめぐる課題を解決するための事業

* 今までの助成事業の例 … ・学習支援活動 ・居場所づくり ・食事・食糧の提供 ・就労支援 ・相談活動 など

【A-2】基盤強化助成 1件あたり上限30万円 総額100万円程度

子どもや若者、子育て家庭の抱える困難の解決に向かって、新しい取組みのための調査や、事業や組織の基盤を強化するために必要な費用を助成します。

<対象事業>

- (ア) 法人格（NPO法人、非営利型の一般社団法人等）取得のための準備事業（イ）新規事業のニーズ調査事業
- (ウ) 資金調達の仕組みづくり事業（工）スタッフのスキルアップ研修事業（オ）その他、事業や団体の基盤強化のために必要な事業

【B】利用者負担軽減助成 1件あたり上限20万円 総額80万円程度

団体で実施している以下のような活動の利用料等を、経済的困窮家庭に対して軽減する場合、団体が負担した軽減分を補てんします。

<対象事業>

- (ア) ファミリー・サポート事業、学童保育事業など、子どもを預かる事業（イ）困難を抱える家庭の子や若者への個別支援事業
- (ウ) その他、「ぎふハチドリ基金」の設立趣旨に沿った内容と思われる事業

【C】冠助成

企業・団体等からの使い途指定の寄付金（冠寄付金）による特別メニューです。

C-1 「こども食堂応援助成」（たんぼぼ薬局「キッズまんぷく」基金）1件あたり6万円を2年間助成（総額各年24万円）

たんぼぼ薬局（株）の寄付による特別メニューです。子どもの食事の提供に関する活動に対して、1件あたり6万円を2年間助成します（報告、精算は1年ごと）。対象となる事業は以下のいずれかにはてはまるものに限りです。

- (ア) こども食堂（イ）学習支援や居場所などの事業の中で、子ども達に食事を提供する活動
- (ウ) 経済的困窮家庭に対して、食料や食事を提供する活動 但し、上記の食事提供に関する活動を定期的に行うことが条件です。

C-2 「交流会開催助成」（こくみん共済coop・子ども成長基金）1件あたり上限10万円 総額20万円程度

こくみん共済coop岐阜推進本部からの寄付金を活用。子育て家庭の孤立・孤独を防ぐため、地域の子育て家庭が集まって、交流できる機会を提供する取組みに対して助成します。

- 例) ・子育てサロン、子育て広場、子育て相談会など地域の親子が交流できる場の提供
- ・コロナ禍で外出を制限された子育て家庭が安心して集える場の提供

C-3 「広域活動助成」（東海ろうきん未来応援寄付金）1件あたり上限100万円 総額300万円程度

東海労働金庫からの寄付金を活用。子どもや若者、子育て家庭が抱える課題を解決するための事業で、市町村の区域を越えた幅広い地域に効果が及ぶ活動に助成します。以下の条件をすべて満たすことが必要です。

- ①岐阜県内に主たる事務所があること。 ②岐阜県内で市町村の区域を越えて実施する事業であること。
- ③申請額が50万円以上であること。 ④今後の目標を持った活動であること（3～5年の中期計画を記入）
- ⑤事前の個別相談に1回以上参加すること。 ⑥2024年3月以降に開催する報告会で、事業の成果を発表すること。

[A-1]事業助成 全11件 合計 2,599,000円

① ニコニコ体操クラブ (本巣市)

助成事業名 障がい者、ひきこもりの若者の心と体の健康作りと居場所づくり並びに入所支援・就労支援と相談事業

助成額 300,000円(総事業費544,282円)

事業の内容

- ・教室25回 延べ参加人数431人
- ・教室のマナー化を防ぐため、モルック等のレクリエーションやバーベキュー大会を行った。また、清流アリーナにてモルック大会を開催した。
- ・本巣市芸能祭が開催され、当クラブも2グループ参加した。知的障がい者の輝く姿を見た観客から大きな拍手や歓声を受け、励みとなった。
- ・ニコニコサポートセンターを開設して、B型事業所から一般事業所への就職の支援を行った。また、グループホーム入所を希望する会員もあり、関係機関との連携、情報交換を行った。支援の方法は、様々なので、どんな支援が適切なのか、その都度試行錯誤となるが、まずは情報交換することが大切と考えている。Zoom会議、事業所と会員間の情報交換を行う等、生活と将来を支援するためのハブになることを目指した。

参加者・対象者の様子

- ・会員の声や生き生きとした様子に接していると、当クラブの活動が、会員の生活のルーティーンになってきていると実感する。当教室は、保護者同伴が基本だが、教室が生活に定着したことによって、一人で来ることが出来る会員も増えた。笑顔があふれ、笑い声の絶えない体操教室になった。
- ・保護者にとっては定期的集まる場所になっており、将来に向けた入所施設、仕事探し、グループホーム等の情報交換、悩みの相談など、教室が終わった後も、しばらく懇談するような様子が毎回みられる。教室が、良い居場所作りと情報交換の機会になっていると感じる。

事業の成果

- ・広報用名入りタオルによるPR活動、会員の口コミ、関連する団体や施設との交流により新規会員6人の獲得ができた。当クラブの会員相互の情報交換から、会員(障がい者)が就職するなどの成果に繋がった。また、ひきこもりの若者が当教室に参加するようになった。
- ・ニコニコサポートセンターでは、一般事業所への就職の支援と父親を亡くした障がい者の成年後見人制度の利用に向けて母親を支援した。

寄付者へのメッセージ

基金の助成がなければ、有償ボランティアの育成、クリスマス会や夏祭りのイベント時の景品、皆勤賞の景品の購入など達成されなかった事ばかりです。

当クラブは、障がい者やひきこもりの方々の心と体の健康作りと保護者を含めた居場所作りを大きな目標にしています。勢いだけで進んできた若いクラブです。その勢いを支えてくださったのは寄付者の方々のおかげだと考えています。心から感謝し、お礼を申し上げます。



「ニコニコサポートセンターの様子」



「健康体操に取り組んでいる様子」

② I'm (北方町)

助成事業名 不登校支援(当事者家族交流会) 事業

助成額 112,000円(総事業費112,533円)

事業の内容

「不登校を、かんがえる」(意見交流会・相談会) 毎月一回の開催

場所:みんなの森 ぎふメディアコスモス

対象者:不登校の子を持つご家族・不登校の子供・不登校問題に関心のある方

- ・4/23(日)大人7人、子ども3人参加
- ・5/18(木)大人5人、子ども2人参加
- ・6/10(土)大人5人、子ども2人参加
- ・7/21(金)大人6人、子ども2人参加
- ・8/13(日)大人5人、子ども3人参加
- ・9/17(日)大人7人、子ども4人参加
- ・10/7(土)大人7人、子ども3人参加
- ・11/4(土)大人5人、子ども2人参加
- ・12/15(金)大人7人、子ども4人参加
- ・1/8(祝)大人9人、子ども8人参加
- ・2/17(土)大人8人、子ども3人参加
- ・3/23(土)大人8人、子ども4人参加

事業の成果

- ・事業計画通り、毎月開催することが出来た。参加者から、「今まで誰にも話していなかったことを話せた」「元気をもらえた」等のメッセージをいただき、一番の目的である当事者家族の心のケアは達成出来た。また、活動が段々周知され、継続参加者が増えた。
- ・当事者家族の中から2名、来年度の理事に立候補があり、支えられる側から支える側になるという良い事例だった。
- ・子供たちにとっても、ここがひとつの居場所になり、「毎月楽しみにしている」「〇〇さん(スタッフ)に会いたいからまた来る」等の声があった。
- ・来年度より岐阜市青少年会館で、目標としていた、学校へ行きづらいうの子のための学習・コミュニケーション支援を立ち上げることが決まった。

寄付者へのメッセージ

この基金のおかげで、今年度この支援を行うことが出来ました。本当にありがとうございます。参加者の皆さんにも大変喜んでいただけました。より良い支援が出来るよう工夫を重ね、今後も続けてまいります。

参加者・対象者の様子

- ・最初は涙目だった方が参加するたび明るくなり、現在では初回参加者に積極的に声をかけてくれている。その変化を何より嬉しく思っている。
- ・子供同士は徐々に仲良くなり、次会える日を確認し合う姿が見られたり、スタッフに心を開き、会いに来る子もいた。

■参加者(当事者家族)の感想

・他にも同じような会に参加したことがあるが、続けて参加しようと思ったのはここだった。

- ・途中参加OKなので、少しでも顔を出せるのがありがたい
- ・学校への対応など、他の人はどうしているのか知れて良かった

■参加者(不登校当事者)の感想 (小学校高学年~中学三年生)

・自分の好きなことをみんなと共有することで、伝えることの楽しさや話すことの面白さが知れた。

・自分の経験がここに来るお母さんたちの参考や励みになると言われたので、少し話してみたらみんなすごく真剣に聞いてくれて、自分が役に立てたことがうれしかった。

■スタッフの感想

・このコミュニティを作ってくれてありがとう、と言っていただけで嬉しかった。子供の個性や特技を伸ばしてあげられるような支援をしたい



↑「中学生と高校生の女の子に中学生の女の子のお母さんが子供の気持ちを教えてもらっていました。子供たちはお礼を言ってもらえたことが嬉しかったようです。」

③ NPO法人こぎつねくんわーんど (恵那市) 事業の成果

助成事業名 生きづらさを感じ、困難を抱えた親子にあんじゃないよ！と声をかける支援事業

助成額 79,000円(総事業費92,325円)

事業の内容

・恵那市は少子化が進み、令和4年度には串原地区では新生児が1名だった。なにか行動したいと思い、今年度は子育て相談を特化し、お母さん達の不安や、孤立化を防ぐためのイベントを行った。村上泰子助産師さんに利用者さんとの交流を深めていただき、下地ができてきた。

<対象者> 未就園児を持つ親子。

<実施内容> 実施日:24回(うち、1回は警報発令のため休止)

・村上泰子助産師による子育て悩み相談(11回/年)

・遠山信子先生による子育て相談(1回/年)

・中京学院大学短期大学部保育課 横井喜彦教授 講演会(1回/年)

・子育て悩み相談(10回/年)

参加者・対象者の様子

・令和5年度の参加延べ人数は232人、未就園児は92人だった。

・恵那市岩村町の富田会館で活動した。自然豊かなところで、川も近くにあり、駐車場もあるし、親子でお散歩したり、野の花を摘んだりして、工作を作り、まさにお母さん達の居場所である「こぎつねの森」の理念にぴったりの場所である。ほっとしていただくように心掛けた。

・コロナ禍で、子育ての悩みが浮き彫りになり、悩んでいるお母さん達も本心が話せない状態が続いた。とくに、発達障害や不登校の問題に悩んでいる家庭が多く、それが、引きこもりとなり、深刻な問題を抱えている。のんびりゆったり子育てする場である「こぎつねの森」で、本心を相談できる信頼関係が構築できると思う。

事業の成果

・子育て支援活動を計画していた関連施設が情報を広めてくださり、思わぬご厚意が嬉しかった。連携することの重要性を感じた。

・スタッフの子育て相談員としての成長を考えると、レベルアップするには、「学び」が大事である。岐阜県子育て支援員研修会を受講し、スタッフ2名が子育て相談員の資格を得ることができた。

・愛知県から40分ほどかけて3組の利用者さん達が来てくださった。3年前に卒業したお母さんからの情報で3組のお母さん達が来てくれた。公的機関の子育て支援でなく、NPOの運営する子育て支援が面白い！といわれた。

・自分たちでできる範囲のこども食堂、「おにぎりの日」を設けたところ、スタッフにも、利用者さんにも好評で、おにぎりを食べながらお話しすると、心が馴染み、雰囲気も良く、これは良い！と評判で、これからも続けていきたい。

寄付者へのメッセージ

私どもは、受益者から対価がえられないので、どうしても助成金だけになります。助成金で活動を繋いでいます。なんとか自活の道を探っておりますので、よろしくをお願いします。



←「ミュージックセラピーでいろいろな楽器で遊ぼうの様子」



「活動・子育て相談の様子」→

④ 一般社団法人もちもちびと (高山市)

助成事業名 困難を抱え孤独感を感じている子ども・若者・子育て家庭が週1回夕暮れにつながり活躍できる居場所事業

助成額 155,000円(総事業費1,267,219円)

事業の内容

毎週金曜の夕方17:30~20:30に誰でも参加できる居場所を開設した。

□簡単食事(大人390円、こども200円)の提供

・毎回有償ボランティア2名で調理、14食~30食を提供した(延べ712食)。

・公式LINEからの当日15:00までの予約制で受付した。

□個別相談の実施

・個室を用意し、必要に応じて個別相談を受けた。(延べ39人、実人数21人)

□無業者等の社会参加の機会と参加者の交流を深める企画

・交流を促進させることと、社会参加へのハードルが高いと感じている無業者等の活躍の機会として、企画者へ謝金を払う仕組みを提案した。また、謝金なしで、多肉植物やオリジナルバッチを自作して販売した方もみえた。

参加者・対象者の様子

・簡単食事では、参加者から、「安価で子連れでも親子共々楽しく安心して過ごせることが有難い」、「手作りの食事を他者と共有して食べられることが嬉しい」という声があった。

・相談の内容は、親子関係、不登校、発達障がい、ひきこもり、身体的病からの精神不安、就労の相談、精神疾患への周りの不寛容さ等の相談があった。

・無業者等の社会参加の機会と参加者の交流を深める企画では、できる仕事をこなし、見合った対価を受け取り、社会参加に向けて自信に繋がった。

寄付者へのメッセージ

皆様のご寄付のおかげで、『みんなの居場所よねこ』を一年間開設することができました。そこでは、多くの出会いが生まれ、孤立感を感じている方々にホッと時間を持ってもらうことができました。また、ボランティアスタッフの居場所にもなったことで、今後も「誰もが孤立せず、緩やかに人と繋がれるような優しい場所を目指して」私たちにできることをできるカタチで続けていくことになりました。ありがとうございました。

事業の成果

□それぞれ異なる生きづらさや困りごとを抱えている参加者同士が、顔を合わせるうちに、緩やかに混ざり、顔見知りになっていった。普段関わりのないであろう組み合わせで、共に食卓を囲み趣味の話で盛り上がる様子から、「居場所」ならではの心地よい距離感の温かい交流が多く生まれた。

□【誰もが孤立せず、緩やかに人と繋がれるような優しい場所を目指しています】というメッセージ通り、そのような雰囲気が出来上がり、参加者誰もが相手を「精神疾患」「困窮」...等のカテゴリーにはめ込もうとせず、「〇〇さん(その人)」として自然に尊重し合う様子は、目指す社会の縮図である。知り合った他者のマイノリティを身近に感じて地域生活を送るようになり、その先の誰かへの優しさや寛容さへ繋がっていると想像できる。

□個別相談を通して、困りごとは大きくなりすぎないうちに、外へ出し、理解者や応援者を見つけいくことが大切だと実感した。また、相談窓口を細分化せず、広くどの分野の悩みも話してよい場と、安心して話せる環境を整える事で、悩みを持ち込みやすいのだと分かった。また、専門的・長期的に相談できる場へ繋げることができた事例も複数あった。このような気づきを行政へ伝え、民間ならではの相談窓口の必要性を訴えていく。

□不登校・発達障がいの子の親であるボランティアの子育て経験を知ることができ、とても参考になったと感謝の声が多かった。当人たちにとっても、苦しんだ経験が新たな価値に変わり、大きくエンパワメントされた。ボランティアメンバーから、自分たちの居場所にもなっているこの活動を助成終了後も続けたいという声が上がった。このような動き自体、ひとつの地域資源が生まれた大きな成果である。

■本事業のような居場所は、『生きづらさや困難を抱えた状態』を受け止め、その先へ陥らないようクッション的な役割を果たし得る。また、「持ちつ持たれつ・互いに活かしあう温かな優しい場」の雰囲気や価値観が、この居場所を体感した人によって町の中に広がり日常に浸透することで、誰もが生きやすい地域へ近づき、間接的に孤立が要因となる自死が減り得る、というイメージが持てた。



⑤ 地域たすけあいの会 (美濃加茂市)

助成事業名 地域の子育て家庭を支える、相談支援・居場所づくり事業

助成額 335,000円(総事業費345,763円)

事業の内容

- ・岐阜県可児市中恵土の当団体のスタッフ所有の宅地で行った。
- ・参加者は子育て家庭の子どもやその親などを対象とした。性別、国籍、年齢など問わず、子育て家庭は誰でも参加可能とした。
- ・2023年4月1日(土)～2024年3月31日(日)の間に、毎週土曜日、毎週日曜日16時～17時30分に計106回実施した。
- ・参加者はのべ人数848人、実人数は79人であった。
- ・保育士経験のあるスタッフを配置し、育児や生活の相談に応じ、アドバイスを行った。物資の支援が必要な家庭には、寄付で集まった食料品や生活用品、おむつやミルクを数個ずつ袋詰めしたセットを支援した。
- ・子どもたち同士が交流できるように、キッズサークルを配置し、キッズスペースを作った。ケガ等がないように必ずボランティアスタッフが見守った。
- ・参加者の実態調査を行うため、参加者を対象にアンケートを実施した。
- ・毎週土曜日に開催しているこども食堂の参加者に本事業を周知した。
- ・事業の案内チラシを作成し、市の公共施設や社協、協力してくださる店舗に置いていただき本事業を周知した。

参加者・対象者の様子

参加者からは以下のような声をいただいた。

「毎週末は夫が仕事で家にいない。そんな中子どもを連れて参加できる場所があってありがたい助かっている」「他地域の子たちとも遊べるので、子どもも友達ができ嬉しいみたい」「子どもが生まれたばかりで働けないので、オムツや粉ミルクがもらえて助かっています」「ここに来て話をすることで、すごくストレスの発散になります」「私も子どもも参加するのが楽しみになっています」「また相談に乗ってくださいね」など。

事業の成果

- ・昨年度からの継続により、新たな参加者があり、参加者同士の交流が広がった。また、昨年度からの参加者により深くコミュニケーションがとれ、参加者の家庭のことや思いを深く知ることができた。
- ・行政の担当課から紹介を受け、本事業に参加された方もおり、対象者に広く周知することができた。
- ・子育てアンケートを通じて、参加者の現状や思いを伺うことができた。
- ・野菜の収穫をしたり、収穫したスイカを食べたりと、いろいろな形で交流することができた。

寄付者へのメッセージ

世の中の環境変化は激しく、その中で取り残されている人は増えています。特にその影響を強く受けている子育て家庭を支えたいという思いで本事業を実施しました。皆様のご寄付で事業を実施することができ、多くの方を支援することができました。まだまだ支えを必要としている家庭はたくさんいます。子どもの成長を社会全体で支えていきたいと思っています。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



←「畑で収穫したスイカを食べている様子」

「子育て応援グッズを渡している様子」→



⑥ NPO法人いちご (養老町)

助成事業名 もくいくようろう事業

助成額 52,000円(総事業費236,952円)

事業の内容

対象:小学生以下の児童園児幼児と家族

○いちご第1回もくいくようろう「モルックを楽しもう」

日時:5/6日(土)10時～12時 場所:養老町総合体育館 多目的広場
参加人数:7組(子ども12人・大人9人)

○上多度第1回もくいくようろう「木のおもちゃで遊ぼう」

日時:6/4(日)10時～12時 場所:上多度プラザ(上多度公民館)
参加人数:4組(子ども4人・大人4人)

○いちご第2回もくいくようろう「森のひろば」

日時:10/21(土)10時～14時 場所:広幡ふれあいセンター
参加人数:15組(子ども21人・大人15人)

○上多度第2回もくいくようろう「クリスマスリースを作ろう～」

日時:11/12(日)10時～12時 場所:上多度プラザ(上多度公民館)
参加人数:11組(子ども17人・大人11人)

○上多度第3回もくいくようろう「木で作ろう～触れて、作って、遊ぼう～」

日時:1/14(日)10時～12時、養老町中央公民館第5会議室
参加人数:5組(子ども10人・大人7人)



事業の成果

- ・事業開催に慣れて来たスタッフも多く、準備段階がスムーズになった。
- ・当日にスタッフ同士で意思疎通が良く出来ていた。
- ・参加人数が安定していた。
- ・開催回数を増やして欲しいとの声が出ていた。

寄付者へのメッセージ

・多くの寄付を頂き、有難う御座いました。長年に渡りお世話になっていきます事に感謝です。

参加者・対象者の様子

イベント開催の年数を重ねて、要領も随分理解出来てきた様に感じた。参加して下さる親子さんの顔ぶれが少しずつ変わってきて、新しい風が吹き込まれてきた様に思った。徐々に変化して行く事は、開催側としても、刺激と感動である。

⑦ 一般社団法人まちのごえん (各務原市)

助成事業名 子育て家庭が安心して過ごせるインクルーシブな居場所づくり事業

助成額 170,000円(総事業費205,893円)

事業の内容

拠点である古民家えんがわにて、月2回、計23回開催した。
参加人数は、延べ大人123人、子ども165人となった。時間は10時～15時、入退室自由。参加費は大人100円で、施設維持費に充てている。
対象は、広く乳幼児を持つ親子だが、育ちや発達に関して不安や悩みを持つ親を対象のねらいとした。
担当保育士が参加者を迎え、子どもが自由に遊び、親同士自然に交流をしていく中で、様々な情報交換をしたり、子育ての悩みなどの相談をしあったりしている。「相談」として対面でかまこまて受けるというのではなく、子どもを遊ばせながら、ぼつりぼつりと親さんから話をされている。
自由遊びをしつつ、水遊びをしたり、近くの畑でサツマイモ堀りや芋づるでリースをつくったり、皆でお昼ご飯を食べたりと、様々な体験や遊び、交流ができるようにしている。特に、完成した砂場は、子どもが自由に遊び、親も自然に仲良くなれる、新たな遊び場として、貴重な存在となっている。

参加者・対象者の様子

- ・遊び、片付けて昼食、という流れの中、親子同士で自然と協力をしながら進め、交流ができる環境となっており、横のつながりができやすい。
- ・親さんも引きこもり傾向があり、子どもも他の子を叩いてしまうと悩み、集団で遊ぶことができなかつた親子さん。繰り返し来るうちに、お友達と一緒に遊び、ご飯も落ち着いて食べられるようになり、成長が見られた。「いつもえんがわが開いていることがとても安心感があった」と話してくれた。親子ともにずいぶん落ち着き、笑顔が見られるようになった。
- ・ワンオペ育児のストレスと上の子を抱えながらの妊娠。頼る人も近くにいない。思い切って遊びに来てくださった親子さん。「またおいでと言ってもらえたことが本当に嬉しかった」とメッセージをくださった。



事業の成果

この「開放日」は、特に決まったイベントを開催するわけではなく、「来れる時間に来て、帰りたい時間に帰る」というゆるいスタイルが、子どものペースに合わせて利用することができ、ゆったりとした気持ちで参加していただいていた様子であった。担当保育士がさりげない距離感で親子に寄り添い、話しやすい雰囲気づくりを大切にしており、初めて来られた親子も最初は緊張しつつも、笑顔で帰ってくださる様子がよく見られた。大きな砂場は複数人の親子で遊ぶにも十分であり、遊びながらコミュニケーションが取れている様子であった。

寄付者へのメッセージ

このたびはご寄付を賜り、まことにありがとうございました。
念願の砂場の完成で、より多くの親子が集い、過ごす居場所となりました。排水、安全性を考慮した丸太、遊びやすい木曾砂など、工事担当の方は大変な工夫をして、費用をなるべく抑えて工事をしてくださいました。この砂場、開放日をきっかけに親子が集い、大人になったときにも「古民家でお母さんやお友達と一緒に遊んだ」という記憶が、子どもにとってかけがえのないものなれぼと思っております。今後も引き続いてこの活動を続け、一人でも多くの親子さん、必要な方に情報が届き、利用していただくため、努力を続けていこうと思います。

⑧ 横屋のえんがわプロジェクト (瑞穂市)

助成事業名 よこやのまなびば こどもまんなか創作食堂事業

助成額 200,000円(総事業費216,684円)

事業の内容

○4/4 よこやのまなびば はるやすみ
計57人(こども44人、大人13人)
○7/25 よこやのまなびば なつやすみ
計77人(こども59人、大人18人)
○8/8 よこやのまなびばなつやすみ
計75人(こども58人、大人17人)
○8/22 よこやのまなびばなつやすみ
計71人(こども47人、大人24人)
○12/27 よこやのまなび ふゆやすみ
計106人(こども70人、大人36人)
○1/5 よこやのまなびば ふゆやすみ
計63人(こども47人、大人16人)
○3/28 よこやのまなびば はるやすみ
計84人(こども60人、大人24人)
・その他、支援物資の受け取り、食材購入、チラシ発注、広報、教育委員会、社会福祉協議会へ後援申請など

参加者・対象者の様子

- ・人付き合いが怖いという子育てに悩むお母さんが、この活動を通じて、安心していただける場ができたとおっしゃっていた。
- ・主体性を持って、他の人のために創意工夫をする姿、お手伝いをする姿、小さい子の面倒を見る姿、困っている子と一緒に解決しようとする姿があった。

事業の成果

子どもたちだけの利用から、保護者の方も増えてきた。今年度は、積水ハウス建設中部株式会社様、木育指導員 小寺様、唄つむぎ和音様にご協力をいただき、子どもたちと一緒に笑顔になることができた。
昨年まではどんなことをして過ごしたらいいのかわからない子どもたちが、主体性を持って行動する姿が見えてきたように感じる。パンを切り分けたり、パントリーや受付、遊びだけではなく、居場所を一緒に作ってくれる光景が見られた。

寄付者へのメッセージ

2年間に渡り、基金を活用させていただきありがとうございました。活動を続けることで、子どもたちと地域のおとなと協力して、食事の提供ができました。こどもたちの「こんな食事をみんなで食べたい！これだったら小さい子でも食べられる、作りたい、お手伝いがしたい」そんな声を実現することができました。

子どものやりたいという気持ちを応援できるような形で今回のこども食堂事業は開催しましたが、これからも多岐に渡り、こどもたちの夢を形にできるような場を作っていきたいと思っております。



⑨ NPO法人大垣市レクリエーション協会（大垣市）

助成事業名 障がいのあるなしに関わらず、共に「楽しい」を創る事業
助成額 196,000円(総事業費261,389円)

事業の内容

- ・「クラブいちぢやれ」チラシ作成、広報おおがきなどで周知し、5/15より募集開始。障がいのある小学生とその家族対象。
- ・「はじめての手話教室」6月18日小学生以上の市民のみなさん対象。
- 5/6指導者スタッフ研修会 ○5/20第1回「運動あそび」
- 6/10第2回「ネイチャーゲーム」 ○7/8第3回「ジャグリング」
- 9/18特別回「ダンス練習(C5忍者ランド)」
- 9/24「ダンスフェスティバル」 ○10/9第4回「ファミレクうひろぼ」
- 11/11第5回「モルック」 ○12/15第6回「おながく遊び」
- 1/13第7回「うどんづくり」 ○2/10第8回「キンボール」など

参加者・対象者の様子

池田町スポーツクラブから、クラブいちぢやれもステージにあがっていただきたくと声掛けがあったが、会員からは大勢の前で踊るのに抵抗があるとの声もあった。それでもダンスに参加して下さった方からは、特別練習会に加え、家で何度も練習し、家族でやりきった嬉しい声も届いている。

「はじめての手話教室」は、参加者の皆さんが満足された。市民のみなさんも手話に引き込まれ、会話を楽しんでいる眼差しや姿勢が見られた。「青年の家miniレク王国」は、0歳～80代まで幅広く参加された。車いすの小学生の参加は、小学校でもらったチラシがきっかけで、「車いすでも行けるのかな？できるのかな？」と半信半疑だったが、野外での自然観察や軽スポーツも同じようにできたことを喜んでいただいた。

スタッフからは、子どもたちの成長や、優しい声掛けや親子の会話の温かさに触れ、今後も積極的に関わりたいという声があがった。

研修の学びから、特性に合わせた対応が子どもたちの居心地のよい空間にも繋がっている。



「青年の家miniレク王国の様子」

事業の成果

- ・障がいのある子どもたちに、新しい活動へのチャレンジの機会ができた。種目の中で個々の「やりたいこと」「やってみたいこと」が実現できた。繰り返し練習する姿をたたえ合い、できたことを共に喜び合い、また、次のチャレンジにつながる姿が幾度もあった。
- ・クラブいちぢやれを核に、「スタッフ研修会」や「手話教室」「レク王国」と障がいのある人となない人が同じ空間で同じ時間で「楽しい」を互いに作りあげることができ、その達成感から、次年度も関わりたい声につながった。

寄付者へのメッセージ

基金のおかげで、様々なレクリエーション種目が体験でき、子どもたちの笑顔と支えられるご家族の笑顔にたくさん出会えました。この体験は、子どもたちの心と身体の成長の1ページとなりました。また、小学生を含む一般市民研修会では、「岐阜ろう劇団いぶき」さんをお迎えすることができ、当事者の皆さんから、手話を学び、共に楽しめる時間や空間が創造できる貴重な体験となりました。この学びは大変深いものとなったことは間違いありません。今後もレクリエーション活動が、障がいのあるなしに関わらず、共に「楽しい」を作り、共存できる社会の実現に役立つように努めて参ります。ありがとうございました。

⑩ NPO法人つむぎの森（各務原市）

助成事業名 生き心地のいい暮らしをつくる
助成額 500,000円(総事業費523,193円)

事業の内容

■つながりマルシェ（9回実施 参加者：延べ約450人）
対象者：生きづらさを抱えた子どもや若者と地域住民と支援者
毎月第二土曜日に当事者の方が他団体の人たちと共同でマルシェを運営した。自分たちで作った野菜の販売や、収穫体験などを行った。地域の中にも定着し始めており、支援機関の方々も癒しの場所として来場されるようになった。毎回畑で採れた野菜で賄い食をつくったところ、好評となり、募金をしていただくことが増え、困窮している方々は、手伝うことで気兼ねなく食事をとることができるようになった。

■居場所交流会（11回実施 参加者：89人）
対象者：生きづらさを抱えた若者
つむぎの森が支援している若者（障がい者、不登校、ひきこもり経験者）と他団体に関わる人や一般の若者とが月一回食事会等をした。インドネシアの方も参加され、一緒に食事を作った。知らなかった一面を見るなど交流を通じて参加された方々との間に仲間意識が生まれてきた。

■若者の居場所未知草（10回実施 参加者：70人）
対象者：生きづらさを抱えた人
各会違うテーマでワークショップを行った。対話形式で自分の気持ちや感じ方、物事のとらえ方を話しあい、考え方や感じ方の違いを分かちあった。粘土や絵画、コラージュなどもつくった。参加者同士の関係性が深くつながり今後も学びあっていく関係性が生まれた。

■昼間の居場所つむぎ野（33回実施 参加者：235人）
対象者：生きづらさを抱えた子どもと若者 母子家庭
母子家庭の親子が来られるようになり、畑でプレーパークのように遊んだ。毎回昼食を提供していたため、困窮していた若者も食事をするために畑に来るようになった。子どもが自主的に遊び、親がくつろいで話をする場になり、その結果自分たちも野菜を作ると畑活動が始まり、この場を一緒に支えていく関係ができた。

事業の成果

- 2年続けたことで自発的に活動の準備運営ができるようになった。
- この活動を支援したいと思われる一般の方々に参加されるようになった。
- 社会的な接点がひろがり、ひきこもりや不登校といった社会とのつながりが困難だった人達が支え手として参加ができるようになり、他の人からもその変化に驚かれるように成長が見られた。就労2名、転職1名と、この活動を通じて生き方が変わった人達も出た。

参加者・対象者の様子

「来るとホッとする。困った時は何とかできるという気がする。」（困窮若者）／「マルシェで販売をしたことが自分も働けるという自信になった。」（ひきこもりから就労が決まった）／「一般の普通の人と関わることが苦手だったが、交流会では安心して関わることが自信になった。自分たちが餃子づくりを教えることになり、普通に人ともそんなに変わりがないと思えた。」／「畑は自分の居場所。もっとたくさんの人に知ってもらいたい。」

寄付者へのメッセージ

みなさまからいただいたご寄付で、毎回いろんな食事をつくり、笑顔を分かち合うことができました。生きづらさを抱えた若者や不登校、障がいなど日ごろはたくさんの悩みを抱えていましたが、地域の方々ともふれあう機会ができ、社会に向けて一歩前に進むことができたように思います。ありがとうございました。



↑「畑の居場所に子どもは遊びを見つける」

←「まかないごはん」

⑪ 一般社団法人よだか総合研究所 (本業市)

助成事業名 根尾川むいむいの森ユースセンター準備事業

助成額 500,000円(総事業費783,621円)

事業の内容

●スタッフ向け研修の開催

①川の安全講習 ②森の安全講習 参加者:各日8人

●ユースセンターの開催

スタッフ(プレーワーカー)が見守り、時には遊びをリードする。

日時:毎週月曜日 10-15時 (うち10回ハチドリ基金を利用)

場所:根尾川むいむいの森、むいむいの家

参加人数:大人30人、子ども107人(延べ人数)。予約不要・利用料無料。

利用者:6市町の小中学生。刈谷市、米原市など他県からの利用もあり。

●その時の子ども達の様子と、環境を考慮して、プレーワーカーが体験プログラムを実施する。

○やったこと

・木登り、虫取り、探検、ドッジボール、丸太で一本橋じゃんけんや平均台、板で滑り台、ロープでターザン、端材で工作、秘密基地づくり、薪割り、のこぎりで枝を落とす、木の実・お花を集める、葉っぱプールなど

・たき火で焼いて料理をして食べる。たき火で雪を溶かしてみる。

・川遊び、生き物探し、おぼれた場合の練習。・雪だるま作り、雪合戦。

・散歩、山の神様にお参りに行く、餅つき、ふきのとうを摘む、たこあげ、読書、お絵かき、人生ゲーム、将棋、ウクレレ、ハンモック、寝る、など。

～ 場を作るにあたって ～

・ハンモックやシートを準備し、休憩できる、ゆっくりできる場所を設置。

・必要に応じて、保護者や学校等にも情報共有する役割を事務局が担った。

・朝と帰りに子ども達からやりたいことを聞き、環境を整えた。

参加者・対象者の様子

子ども同士、子どもとスタッフのつながり機会を作るために、簡単なミーティングをするようになった。子ども達同士も慣れてきて「それ嫌だからやめて」なども言える関係性になってきた。

○印象的なケース1)

地域の中に、家の他に行く場所がない、友達ともすぐに喧嘩してしまう。

ユースセンターのほどよい距離感の中で、自由に過ごすことができ、

「また行きたい場所ができた」と喜んでいた。(発達障害/不登校)

○印象的なケース2)

適応指導教室に行ってみたが、車から降りることができなかった。むいむいでは、自分のペースで活動できている。保護者からは「むいむいから

帰ってくる日はとても機嫌が良い」と聞いている。(小学生)



事業の成果

●利用している小中学生のうち、45%は学校にもまったく通っておらず、フリースクールも利用していなかった。利用者の72%が、むいむいに来て考え方や気分がポジティブな変化があったと答えた。

●広い空間で他人と距離が取りやすいことで、他人との距離感に悩む子ども若者が参加しやすかった。

●たき火の料理や、ブッシュクラフト、秘密基地づくりなど、森の素材や環境を用いた子ども若者自身によるものづくりや没頭・創造によって、孤独状態を質的に転換する事例が生まれた。

●公開研修を行ったことで、ボランティアスタッフもできた。また、地域の大人や、ユースセンターを利用している子どもの保護者も、利用者が孤立しないように見守る協力者となった。

●本業市では、教育委員会の協力のもと、ユースセンター利用日が小学校の出席扱いとして認められた。

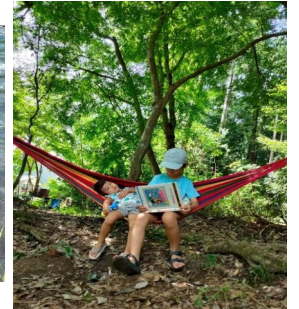
●スタッフ同士の振り返りや、ミーティングも行い、個別ケースを手厚くケアする体制を作った。

●ゆっくりしていく保護者やお迎えの時間におしゃべりしていたりする姿が見られる。他の家庭の様子を聞いたり、他の子どもの様子を見ることも、親子の安心につながっている。

寄付者へのメッセージ

いろんな人がいていい、なにをしてもいいしなにもしなくてもいい、思うがままに過ごす。まじわる、つながる、力をとりもどす。

がんばらなくてもいいんじゃない?ぼーっとしててもいいよ、おしゃべりもいいね、自分の時間を過ごすところ。むいむいは、現在、こんな場所になりつつあります。嬉しいです。良かったら、遊びに来てください。



※⑩、⑪の事業には、東海ろうきん未来応援寄付金より、各88,500円(合計177,000円)分助成されています。

【A-2】基盤強化助成 全6件 合計906,720円

① ハルジオン～不登校や不登校経験者の子と親と一緒に歩む会（飛騨市）

助成事業名 子供たちの自分らしい未来に繋がる居場所づくり事業

助成額 159,000円(総事業費160,955円)

事業の内容

- 毎週3回、時間は 13:00～17:00。
- ・3月…新設する場所の選定と決定。
- ・4月…10日間開所、利用者なし。プレオープン。
- ・5月…11日間開所、2人が1回利用。本オープン。PC2台購入、設置。PCやゲーム等でも交流が出来るよう Wi-Fi 利用時のルールを一緒に決めた。
- ・6月…12日間開所、1人が2回、2人が1回利用。湯沸かしポットを購入し、皆で休憩タイムには飲み物を作り、調理等にも利用。
- ・7月…12日間開所、1人が5回、2人が2回利用。
- ・8月…12日間開所、1人が7回、2人が1回利用。寄付の扇風機も使って、安全に過ごすことができた。R6年度から高山市に「にじ色」特例校がスタートすることもあり、交流会や講演会等に参加した。
- ・9月…12日間開所、1人が10回、2人が1回、5人が1回利用。ホットプレートを購入してお楽しみ会をし、ピザ・クレープ作り、ゲームをして交流した。
- ・10月…13日間開所、1人が12回利用。
- ・11月…11日間開所、1人が9回利用。たこ焼きプレート等を購入してベビーカー等を作り、子どもと一緒に交流会準備や、それぞれのやりたい事をして過ごした。
- ・12月…12日間開所、1人が8回、7人が1回利用。クリスマス交流会実施。ベビーカーのツリーケーキとピザ、ポテト等を作り、楽しんだ。
- ・1月…9日間開所、1人が7回利用。お菓子作りや読書、絵を描いたりボードゲームをしたり、時々PCも使って学習したりして、継続利用する子もいた。
- ・2月…11日間開所、1人が8回利用。
- ・3月…12日間開所、1人が9回利用。前日に写真を見てスニーカーを履いて来たので早速、初めての国府町の安国寺石段1000段にチャレンジして1時間10分で登り45分かけて降りてきた。

事業の成果

- ・PC 教室や PC が常にあることで 新規の子どもも複数の参加に繋がり、相談のきっかけとなった。
- ・ホットプレート等があることで、子ども達がチャレンジしたい調理やお菓子作りが出来、自分でレシピを書いて準備したり実際に作ったり誰かと一緒に食べることは、子ども達にとって貴重な経験となると実感している。
- ・季節で気温変化が激しいが、季節家電や燃料、消耗品を安心して準備でき、1年を通して皆が過ごしやすく、様々な活動に繋がった。
- ・継続する事で地域の現状と課題が分かり、他団体や学校、行政とも新たに連携して今後の活動に繋げることが出来る様になった。



参加者・対象者の様子

- ・今年度の主な参加者は小学生で、中高生は地域性もあって SOS や居場所に繋がりにくい事が多く家族の支援と繋がりがより大切だと思います。
- ・それぞれに寄り添いその子らしさを大切にすることで少しずつ自分で決めて伝える関わりになり、小中高それぞれに自分の進路ややりたい事を考える子も増えています。家族交流も緩やかに進んでいます。

寄付者へのメッセージ

令和5年度スタートとなった子ども達の居場所事業は開所初期にハチドリ基金の申請を紹介していただけたことで、この事業に取り組む様々な相談をさせていただく事が出来ました。助成金をいただいたお陰で購入させていただいた調理家電等を使い、子ども達がやりたい事や作りたい物に沢山チャレンジする事ができたので、皆様本当にありがとうございました。PCも興味ある子は多く、令和6年からはさらに工夫した利用を計画しています。暖冬のため灯油使用が減った分は来年度例年通りの寒さでも安心できる様、関連したものを購入させていただきましたので、より安心安全な居場所づくりに生かしていきます。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

② NPO法人こどもトリニティネット（岐阜市）

助成事業名 ぎふママ子育てサロン相談窓口事業

助成額 150,000円(総事業費186,219円)

事業の内容

- 【研修会】
- ①「相談支援基礎講座」
実施日：6/28、9/28、2/29
認定NPO法人LiveQuality HUB主催。講師はNPO法人あつとわん河野副代表。相談を受けるにあたり、必要な知識やスキルについて学んだ。
- ②「ぎふママ子育てサロン相談窓口事業研修会」
実施日：12/25 参加人数：7人
弊団体主催。講師はNPO法人グッドライフ・サポートセンター中島理事長。ママから相談を受けるにあたり、知っておくべきことについて学んだ。
- 【調査】
- ①岐阜市における相談の実態
実施日：11/10 実施場所：岐阜市役所
参加人数：団体スタッフ2人、子ども政策課担当者様2名
岐阜市に寄せられた相談について、件数や相談内容のヒアリングを行った。
- ②岐阜県における相談の実態
実施日：12/4 実施場所：岐阜県庁
参加人数：団体スタッフ2人、子ども家庭課担当者様2名、岐阜県ひとり親家庭等就業・自立支援センターセンター長様
ひとり親世帯の相談についてヒアリングを行った。
- 【相談事業「ぎふママ子育てサロン特別編 ママの悩み相談カフェ」】
実施日時：1/31 実施場所：三承工業株式会社様モデルハウス
対象者：0歳～2歳の子どもの育てるママ(子連れ参加可)
参加人数：6組12人（予約9組）
子育て中のママが、日頃の悩みや不安を相談するためのものである。育児の不安や自分自身の気持ちにどのように向き合えば良いかコメントをもらうことができるよう、こころのげんき株式会社様にご協力いただきながら、心理相談室の心理士さんに同席してもらった。

事業の成果

- ・外部研修会への参加や団体内研修会の開催により、スタッフ内で共通の心構えができた。
- ・不安や悩みの相談に焦点を当てた「ママの悩み相談カフェ」を開催することができた。定員以上の予約があり、需要のある事業が企画できた。内容に関しても、参加者の満足度が高いものを提供することができた。



参加者・対象者の様子

- 【「ママの悩み相談カフェ」参加者の感想】
- ・和気あいあいとした雰囲気、ネットではなく生の声が聞けてよかった。
- ・経験論だけでなく、専門家の違った見方の意見ももらえた。
- ・ストレスに対する考え方が変わった。
- 【事業全体を振り返ってスタッフの感想】
- ・「相談カフェ」は初めての取り組みだったが、悩みを聞いてほしい、話したいという人がいて、このような形式での相談会の需要があることが分かった。
- ・母親同士で悩みを共有するだけでなく、専門家の立場で少し違った角度からコメントができる人に同席してもらうことは必要であると感じた。
- ・相談というものは覚悟が要る事業だという事を改めて認識できた。
- ・本事業を通して、ママ達が相談したくなる人間、団体になるため、今後もよりママに寄り添う支援を行いたいと思った。

メッセージ

今回ハチドリ基金を使わせていただいたことで、相談支援を実施するためのスキルを身につけることができました。そして、研修等を経て実施した「ママの悩み相談カフェ」において、乳幼児を育てる母親にとって、悩みや不安を気軽に相談できる場所があることがとても大切であると実感しました。来年度も母親に寄り添えるような活動を行う所存です。ありがとうございました。

③ NPO法人チャイルドラインぎふ（岐阜市）

助成事業名 助成金に頼らなくても活動できる団体にしていくための資金強化事業

助成額 300,000円(総事業費301,440円)

事業の内容

- 資金集めを目的としたチームを作り、意見をだしあう。
 - ・イオン黄色いレシートキャンペーンの日 街頭広報活動 5人
 - ・未来を強くする子育てプロジェクト応募 3人
- 他県の団体、チャイルドラインあいちなどへ出向き、活動状況を視察する。
 - ・チャイルドラインあいち訪問 1/13 2人
- テレビ、ラジオを通して、活動をPRする。
 - ・ぎふチャンラジオ ゆっこ学園月曜なのに金パーソン 5/29放送 ゲスト出演 松田理事長
 - ・ラジオCM収録 6/14 ぎふチャンラジオ 2人
 - ・ラジオCM放送 8月(10回) 9月(10回) 10月(10回) 11月(10回) 12月(15回) 1月(15回) 2月(11回) 3月(10回)
- ホームページを活用する。
 - ・ホームページリニューアルに向けての検討、費用の試算、業者見積りも依頼
 - ・ホームページ制作検討会議 3/19 5人
- 自治体との協働を検討する。
 - ・岐阜市会議員との懇談会(メディアコスモス) 2/7 2人
 - ・地元協賛企業訪問 2/15(大垣市内3社 2人)、2/25(岐阜県内3社 3人)
 - ・社会福祉協議会、教育委員会、エールぎふへの訪問 2/27 2人
- チラシ作成
 - ・チャイルドラインぎふ広報用チラシ印刷 10/22 9人



事業の成果

・ラジオCMを制作し、45回の放送を通じて、県民に広く広報を行えただけでなく、県内メディア関係者との繋がりを獲得し、今後の広報活動の基盤を確保することができた。ラジオ聴取者から支援の申し込みにつながることもあり、当初の目的を達成することができた。

参加者・対象者の様子

チャイルドラインぎふの知名度向上と支援者獲得のためラジオCMを制作し、ぎふチャン内で放送を行った。CMの制作過程においてメディア関係の方に協力を得られるルートを獲得、実際の放送を聴取した方からの問い合わせもあり、反響を実感できた。資金協力に関する企業訪問ではこちらからの要望だけでなく、団体に対する意見もいただき、次年度以降の改善点を得ることもできた。広報用チラシやパネルも作成し、当団体の主目的であるヘルプライン事業(電話受付)以外での活動の活性化と広報に対する意識改革も進めることができた。

寄付者へのメッセージ

みなさまのご支援によりチャイルドラインぎふの事業を推進することができ、感謝いたします。

チャイルドラインは相談機関ではなく、子どもの話を聴く場です。喜びも、悲しみも、苦しみも、なんとなく話したい時も、指示されることなく話せる場というのが他のヘルプラインとの違いです。今後もご支援をよろしくお願いいたします。

④ ひとり親ピアサポート団体「ひとり親Cheers」(各務原市)

助成事業名 ひとり親を支える地域の輪を広げ、支援力パワーアップ事業

助成額 59,000円(総事業費83,520円)

事業の内容

- ①「シングルマザーサポート団体全国協議会 全国大会」への参加
7/1～7/2に石川県金沢市で開催された大会へ代表と今年度から世話人になった2名で参加、全国の同志と学び合い、交流した。
- ②「ひとり親家庭サポーター養成講座」の受講者募集と受講費の補助
9/16～9/17、2/3～2/4にオンラインで開催されたひとり親家庭の支援者を養成するための講座の受講を呼びかけ、結果5名が受講し、ひとり親当事者へは受講費の補助を行った。
- ③団体紹介パンフレットの作成
団体の活動の全体像がわかる総合パンフレットを作成した。
- ④HP の情報を強化
ライターと打合せの上、HP の掲載内容の見直しや修正を委託した。
- ⑤業務改善および個人情報保護対策として新たなシステムの導入
公式LINE とGoogle の連絡先で管理している会員の個人情報を一元管理するためのシステムを検討した。情報収集および専門機関へ相談を行い「Lステップ」を導入するに至った。

参加者・対象者の様子

- ①「シングルマザーサポート団体全国協議会 全国大会」への参加
参加した世話人にとって、普段の活動が、当事者への直接支援としてだけでなく、より大きな意味での支援(政策提言を通じた改善)にも繋がっているということを感じてもらえた機会となった。
- ②「ひとり親家庭サポーター養成講座」の受講者募集と受講費の補助
受講者から「自分と同じ」ひとり親と言って、ひとり親になった経緯も暮らし方も千差万別で色々な方がいることがわかった。「支援者として、“抱え込みすぎない”、“一線を引くことも大事”という言葉にハッとさせられた」「ひとり親の支援制度やそれに関わる法律などを分野横断的・総合的に学べたのはとても貴重だった」との声が聞かれた。



事業の成果

- 団体の運営を担える人材の育成に繋がった「イベント当日のお手伝い」から、「この活動の意義を感じ、一緒に考え実行する」スタッフを育てることができた。「シングルマザーサポート団体全国協議会全国大会」への参加が、社会的に意義のある活動として日々の活動をしていくマインドに変化していくきっかけとなった。また、「ひとり親家庭サポーター養成講座」の受講者が新たな仲間となった。
- 団体の活動をわかりやすく伝えるツールが増やせた
団体を設立して2年が経とうとする中、事業も広がった。団体の活動の全体像が大まかにつかめるパンフレットを作成することができ、今後の広報活動に大いに役立つ。また、HPをより見やすいものへ進化させることができた。
- 業務効率化のためのシステムの導入ができた
助成金申請時に想定していたシステムではうまくシステム同士が繋がらないと判明し、違うシステムを導入したが、おかげで今まで手動で行っていた作業を自動化できるようになった。

寄付者へのメッセージ

団体が行う個々の「事業」に対しての助成金は他でも沢山ありますが、団体の基盤そのものを強化する事に対する助成金はかなり貴重です。また、ハチドリ基金さんのように「非営利であれば法人格は問わない」、「実績がなくてもOK」という助成も少ないです。「ハチドリ基金」は地域に密着した、規模の小さな、いわゆる「スタートアップ」の市民団体には、とても貴重でありがたい存在です。地域での市民活動の裾野を広げることに大きく貢献されているらっしゃる基金だと感じます。今後もご寄付を通して当団体含む多くの草の根の市民団体の活動を支援いただければ幸いです、どうぞよろしくお願いいたします。

⑤ かさまつ子どものまち実行委員会 (笠松町)

助成事業名 かさまつ子どものまち実行委員会法人化事業

助成額 212,000円(総事業費228,234円)

事業の内容

かさまつ子どものまち実行委員会の法人化

①子どもの権利の理解を深め共通認識とするための研修

8/25 笠松中央公民館、対象:スタッフと関係団体ほか 参加者14人

「子どもの権利とNPO」講師:原美智子氏(子どもの人権ネットワークぎふ/ぎふNPOセンター理事)

②団体のミッションの確認・形成に向けたワークショップ

12/10 対象:会員・会員予定者 参加者21人

・12/14、12/21「理念共有ワークショップ」青木文子氏(司法書士)

・1/21 子どもの権利研修(外部講師なし)

③仮事務所の設置(会員の自宅などを仮事務所とする)

④定款作りその他ミーティング 10月~2月

「10/24法人化に向けた書類作成開始」「12/28書類作成」「1/12団体名・

理事・その他ミーティング」「1/16ぎふNPOセンターで定款について相談」

「1/20定款・総会準備」「1/31設立総会・事業・予算」「2/8研修及び総会打

合せ」「2/9設立総会資料作り」「2/29予算(再考)ミーティング」

⑤ホームページ作り

現会員の高校生2人と実行委員長とで仮事務所で作成作業。

<https://korandwork1.wixsite.com/korando/>

⑥設立総会

・2/10 現会員と会員予定者18人で開催

・設立準備研修

「すべての子どもが幸せに生きられる地域のつくり方」武田信子氏(一般社団法人ジェイス代表理事)

コミュニティーワークとメンバーのエンパワメントを中心に講演とワークの研修

対象:会員、会員予定者、今後協力体制を取りたい団体や個人 参加者50人

⑦NPO法人申請

笠松町の担当者に事前に確認してもらった書類を2/22に提出する。しかし、町担当者も認証申請が初めてで、申請提出後も担当者が県庁担当者に問い合わせる、こちらに確認するというやり取りが何度も繰り返され受理されず、書き直しが何度も発生。3/13にやっと申請が受理された。3/29まで縦覧期間。予定していた期間よりずいぶん長かかってしまった。

⑧4/1認証到着。4/2特定非営利活動法人こらんど登記申請。

4/15登記完了予定。

事業の成果

これまで活動してきた会員が関わりながら、この先のビジョンやミッションを考えられる研修ができたことが、団体を法人化するうえでチーム力が上がったと実感できる。また、研修をしたうえでミーティングをしたことにより、皆の意欲も高まり高校生以上の各年代の理事を決定することができ、偏った組織編成にならなかった。

参加者・対象者の様子

法人化チームが中心になり書類作成やミーティングなどを進めることができた。

また、基本となる子どもの権利やウェルビーイング、自分たちが社会を変えられるというエンパワメントおよび地域を変えていくコミュニティーワークの研修をすることによりメンバーの意識が向上。理念共有ワークショップではこれまでの活動を基本に同じ方向へ向かい法人をつくるという意思確認とこの先のビジョンを作ることが出来た。新しくなったNPO法人こらんどが何を問題ととらえ何をミッションとするのかを共通認識とできた。また、以前よりもスタッフであるという当事者意識が芽生えたように感じる。コミュニティーワークの研修は、関連する団体や協力をお願いすることになる地域の民生委員などにも入っていただいたことにより、これまでの任意団体からなぜ法人化するのかということも分かっていただけ、協力体制の基礎を作ることができた。

寄付者へのメッセージ

今回、助成金を頂き、研修を重ねながら会員の意見を入れて法人化することが出来ました。基金がなければ、研修はできず、一部のメンバーのひとりよがりなものになっていたかもしれません。とても感謝しております。子どもたちの意見を聴く、子どもたちが参画するというのも法人化においても挑戦することが出来ました。今後、笠松だけにとどまらず、広い地域で活動していきたいと思っております。



⑥ 防災災害子ども支援チームひまわり (岐阜市)

助成事業名 法人格取得のための準備事業

助成額 26,720円(総事業費26,720円)

事業の内容

定款作成を行うにあたり、計8回岩戸弘法弘峰寺に集まり会議等を行った。その中で任意団体としての活動・会計と法人格としての活動・会計をなるべくかぶらないよう年明けを目処に申請をしようという結論に至る。

・5/13 弘峰寺「多メンバーの人選」

・6/10 弘峰寺「自己紹介・方針決め」

・7/8 弘峰寺「ざっくりとしたもの決め」

・8/19 弘峰寺「出崎氏による講演『一般社団とは』」

・9/9 弘峰寺「定款相談」

・10/14 弘峰寺「定款相談」

・11/11 弘峰寺「定款決め・デザイン相談」

・12/9 弘峰寺「デザイン等相談」

9月に各種印鑑を注文、納品された。

同時期にHP・チラシ等のお願いをデザイナーにお願いした。

※団体の事情により、事業を中断しました。

(法人印等の実費分を除き、返金いただいております。)



チーム ひまわり	<p>今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人化を目指す ・法人格取得後、メンバー募集 ・岐阜市子ども防災支援事業を受け、子ども食堂の運営を始める。 ・多岐にわたるような「地域性」の提供を目指す。市民活動としても発信。 	<p>代表紹介 秋元文治</p> <p>2012年11月、岐阜県に在住するNPO法人代表者。岐阜市立中央公民館(現岐阜市立中央公民館)で活動。岐阜市立中央公民館(現岐阜市立中央公民館)で活動。岐阜市立中央公民館(現岐阜市立中央公民館)で活動。岐阜市立中央公民館(現岐阜市立中央公民館)で活動。</p>
	<p>お問い合わせ先</p> <p>チームひまわり</p> <p>岐阜市立中央公民館(現岐阜市立中央公民館)で活動。岐阜市立中央公民館(現岐阜市立中央公民館)で活動。岐阜市立中央公民館(現岐阜市立中央公民館)で活動。岐阜市立中央公民館(現岐阜市立中央公民館)で活動。</p>	<p>お問い合わせ先</p> <p>岐阜市立中央公民館(現岐阜市立中央公民館)で活動。岐阜市立中央公民館(現岐阜市立中央公民館)で活動。岐阜市立中央公民館(現岐阜市立中央公民館)で活動。岐阜市立中央公民館(現岐阜市立中央公民館)で活動。</p>

【B】利用者負担軽減助成 全6件 合計 765,915円

① NPO法人ふる里めいほう (郡上市)

助成事業名 放課後児童クラブ ひとり親家庭児童の利用料軽減事業
助成額 60,300円(総事業費60,300円)

事業の内容

放課後児童クラブ利用者のうち、ひとり親家庭の利用料を軽減した。

事業の成果

母子家庭の兄弟に対する放課後児童クラブの利用料を軽減した。
近年の諸物価高騰により、経済的不安がさらに高まる母子家庭ですが、当事業のおかげで保護者は安心して就労することができ、子どもたちも通い慣れた放課後児童クラブを継続することができた。また、集団活動(異学年交流)の場で過ごすことで人との関わり方を学び、学年を越えた友達づくりや、コミュニケーション能力・協調性の向上を図ることができた。

利用者負担軽減をした条件

- ・対象者:児童
- ・利用条件:ひとり親家庭

寄付者へのメッセージ

放課後児童クラブは、保護者が就労等により昼間家庭にいない小学生にとって家庭に代わる生活の場であり、児童の健全育成や安全の確保の面からも欠くことのできない大切な場です。皆様のご寄付によって、児童を放課後児童クラブに預けることができ、保護者は安心して働くことができました。長年ご支援頂きありがとうございました。



② 一般社団法人SEIMA137 (関市)

助成事業名 児童自立生活援助支援事業
助成額 200,000円(総事業費200,000円)

事業の内容

フリースクールと認可外保育園。

事業の成果

ひとり親世帯であり、尚かつ、多子家庭の方などは、経済的困難は当然として、精神的にもかなりの負担があり、支援があることにより、通園を継続することができ、大変救われています。
・弊社は、オーガニック給食を継続していることにより、アトピー、精神疾患のお子様などがかなり良い状態に変化されています。
・経済的困難を抱えているご家庭が増えているため、会社としては利益がなくても、受け皿にならざるを得ないケースが多いため、少しでも援助は大変助かります。

利用者負担軽減をした条件

- 対象者:満2歳から6歳(認可外保育園)、7歳から18歳(フリースクール)
- 利用条件:・ひとり親世帯
- ・多子家庭(満2歳から18歳までで2人以上利用がある家庭)

寄付者へのメッセージ

貴重な寄付をありがとうございます。やりたいことがあってもお金がなくてあきらめなくてはならないこともありましたが、助けて頂いたおかげで助けが欲しいと思ってくださっている方のサポートに多くの気持ちと時間をかけてやりきることができました。
社会に還元していけるように活動をこれからも続けていきたいと思えます。



③ NPO法人学習館みずほ (瑞穂市)

助成事業名 放課後学童保育事業
助成額 151,800円(総事業費151,800円)

事業の内容

学童保育

事業の成果

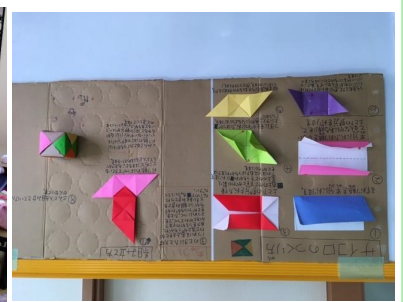
・放課後の児童の安全な場所が確保されることにより保護者は安心して働くことができ、保護者の精神的負担を軽減することができた。
・通所児童は放課後保育の生活を通して、日常生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けることができ、学習活動では自主的に宿題や自習が行えるようになった。
・通所児童は遊びを通して学年の枠を超えた交流ができ、社会性を身に付けることが出来た。
・本事業を健全に行ったことにより、社会が求めている事業に参加貢献することができ、NPO法人「学習館みずほ」をより広く認知してもらうことができた。

利用者負担軽減をした条件

- 対象者:学習館みずほに通所する小学1年生から小学6年生までの児童
- 利用条件:ひとり親家庭

寄付者へのメッセージ

学童保育の利用者負担軽減助成に採択して頂き深く感謝申し上げます。助成金のおかげで人件費を増額することができより質の高い保育を実施することができました。ありがとうございました。



④ 一般社団法人ぎふ学習支援ネットワーク (岐阜市)

助成事業名 生活困窮世帯の子どもが「学習支援室」に通うバス代補助事業
助成額 200,000円(総事業費200,000円)

事業の内容

生活困窮家庭等の子どもに対する学習支援を実施している。特に岐阜市内にある支援室では、岐阜市と連携して支援を実施しているが、通っている子どもたちの内「就学援助を受けている家庭」の場合、支援が無料で受けられても交通費がないことから、支援場所に来られない子どもが存在する。そんな子どもに対し、本事業で「バス代」「電車代」等を補助し、安心して「学習支援室」に通うことができた。8か所ある支援室のうち、3か所が本事業の支援で、対象の子どもたちに「交通費補助」を実施した。

利用者負担軽減をした条件

対象者: 就学援助家庭の小学生・中学生・高校生、子どもと同行する兄弟姉妹
利用条件: ・市から交通費助成がないため、補助しないと通えない
・子どもだけでは危険なため同行してもらおうが、その人の交通費も補助しないと通えない

寄付者へのメッセージ

活動資金は「活動志金」「活動支金」です。いただいた浄財は、私たちの目的である「どの子どもも市民として笑顔いっぱい生きられる地域にしたい」を具現化するために使わせていただきます。ありがとうございます。



事業の成果

・「学習支援室」に通ってくる子ども達…何より「支援室に通える」。支援室が子どもたちの住居の身近にあれば通うことは簡単だが、現実には厳しい。特に一人親や共働き等、大人が送り迎えができない家庭は多く、公共交通機関を利用しての通室はやむを得ないが、その費用がないという家庭も多く、この補助があるから毎回通って来られる子どもに必須であった。
・学習支援室の利用を希望する保護者…困窮家庭やトリプルワーク等で家におられず、送り迎えができない保護者にとって、中学生以上の子どもは公共交通機関の利用とその補助は好評である。また、子ども自身で通う行為そのものは「子どもの社会性」を育むと好評である。
・採択団体(学習支援室実施団体)…本補助を受けられて通う子どもが増えることは、目的達成の意味で、また、費用対効果の意味でありがたい。得に、自法人が行政の力を借りて実施する「学習支援室」では、何より「貧困の連鎖を断ちたい」想いが強いことから本助成が無ければ通えなかった子どもが通年参加でき「高校進学」や「希望の進路が選択できた」ことは喜びもひとしおである。

⑤ NPO法人飛騨高山わらべうたの会 (高山市)

助成事業名 高山市ファミリーサポート事業 びいばおサポート(託児事業)
助成額 153,815円(総事業費153,815円)

事業の内容

・高山市ファミリーサポート事業では、高山市内の家庭で生後3ヶ月～18歳までの託児を請負う。
・びいばおサポート事業では高山市外の家庭で生後3ヶ月～小学生までの託児を請負う。

利用者負担軽減をした条件

対象者: ・高山市内で18歳以下の子どもがいる家庭、高山市外で小学生以下の子がいる家庭
利用条件: ・ひとり親家庭 ・要養育支援家庭
・生活保護受給家庭 ・緊急性があると判断される高山市外の家庭

寄付者へのメッセージ

「ぎふハチドリ基金」の助成をいただき、「ひとり親家庭」、「要養育支援家庭」の託児利用料減免を実施することができました。家事、育児、仕事に一人で奮闘されているひとり親さんからは、「他に頼れる大人がいないので、どうしてもファミリーサポートをお願いする事が多くなります。利用料減免のおかげで経済的な不安なく利用する事ができました。本当にありがとうございました」と感謝のお言葉をいただきました。飛騨高山わらべうたの会では、子育て家庭に寄り添った様々な活動をしております。本当に支援が必要な家庭が、何も心配することなくSOS発信できたのは、「ぎふハチドリ基金」のおかげと心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



事業の成果

・昨年度は利用料金80%減免を実施したが、約半年で助成額を超えてしまった。今年度は、対象をより切実な「ひとり親家庭」と「生活保護世帯」のみに絞り50%減免としたが、料金が上がった為に、利用を控えるケースが目立った。7月より「月に5時間までは昨年同様80%減免」と変更したところ、利用を控えていたひとり親家庭も再び託児を依頼されるようになった。
・同時に「要養育支援家庭」にも減免を拡大した。要養育支援家庭の方は、減免でファミサポを利用した事をきっかけに、高山市の養育支援終了後もファミサポを上手に利用しながら子育てをされるようになった。
・思春期の子どもとの関係に悩むひとり親のお母さんや、不登校の子どもを持つひとり親世帯から「宿題(勉強)を娘と一緒にやってくさる方はいませんか?」と相談があった。
・令和5年度は高山市ファミリーサポートも2年目となった。手探りで運営していた1年目に、半年で助成金20万円を使い切ってしまった反省を踏まえて、本当に減免を必要とするのはどの様な家庭か、どの様な形で減免できれば利用しやすくなるのかと、常にスタッフ同士で相談する1年間となった。今後も、必要な支援が、必要な家庭に届くようアンテナを張り巡らせて、細やかで迅速な対応ができるNPO団体を目指していきたい。

⑥ 一般社団法人まちのごえん (各務原市)

助成事業名 託児サービス事業
助成額 対象者なし

事業の内容

生活困窮者・シングル家庭、養育の大変な家庭に対して託児サービスの減額をする事業である。しかし、対象家庭にリーチできなかったため、実施できていない。リーチできなかった理由は様々考えられる。市役所担当者との十分な連携を図れなかった。また、子ども食堂がスタッフ不足のため6月に休止となり、定期的に来ていた方の層が変わったこと。また、子育てに不安な家庭のために月2回行っていた開放日の利用者には案内をしていたが、該当家庭でかつ託児希望の方はいなかった。



事業の成果

貧困家庭・養育困難家庭へのスタッフの意識が高まった。
声かけの方法・アプローチの仕方などについて、スタッフ同士で意見交換をする機会が多く生まれた。

【C】[1]たんぽぽ薬局「キッズまんぷく」基金「こども食堂応援成」(1年目) 全3件 合計180,000円

① やこ&もこの家 (多治見市)

助成事業名 福ちゃん食堂事業

助成額 60,000円(使途:ボランティアスタッフ人件費等)

事業の内容

近年の貧困問題を解決する一助となれることを目的とし、ひとり親家庭など社会的弱者の方に、食事と居場所を提供し、分け隔てなく多くの方に参加いただいた。畑作業も行い、収穫の喜びを感じ、感謝して収穫したものをいただく体験を行った。人件費として、活動に参加したり、準備等を行った方に、月に一ポイントとカウントし支払うことができた。

主な対象者

どなたでも。ただし、事前に予約をいただく。

事業の成果

- ・今まで、口コミで広がってきていたが、今回Instagramを立ち上げ、外部へ発信することの大切さと、難しさが経験できた。
- ・ハチドリカフェ等に参加して、ほかの団体の活動を見聞することができた。横のつながりを広げられる可能性をいただいた。
- ・手当てをいただけることで、より一層前向きな活動につながった。

「たんぽぽ薬局」へのメッセージ

今回はスタッフの人件費等として、利用させていただきました。ありがとうございました。Instagramのハッシュタグに「たんぽぽ薬局」を2024年度はタグをつけさせていただきます。引き続きよろしくお願いいたします。



「畑仕事」



「スライム作りのお楽しみ」



「味ご飯を大きな炊飯器で作り、盛り付けました。みんなで一緒にいただきます！」



②NPO法人スマイルBasket (岐阜市)

助成事業名 「今日の小夜食なあに？」から始まる学習支援事業

助成額 60,000円(使途:食材購入費、消耗品費)

事業の内容

毎回夕方6時から8時半までの学習支援実施中の休憩時に「小夜食」を提供した。「食わず嫌いだったけど、食べてみたらおいしかった」の経験してもらおう工夫している。以下のことに配慮しながら実施してきた。

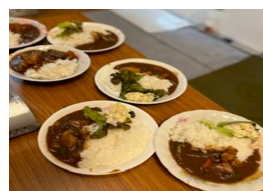
- ①食中毒、ウイルス等の感染等への配慮に努める。
 - ②目の前で調理することで「食べた～い！」の気持ちを喚起する工夫。
 - ③余剰食品の提供等低額で提供できるよう工夫し、継続を確保する。
 - ④出来合いの食品より作り立ては「心があつたかくなる」体験を重ねる。
- ・提供する「小夜食」はすべて「火を通す」ことに心がけ、夏季は熱中症対策で、「冷茶」「麦茶」を欠かさぬようにも配慮した。また、勉強が長くなると「中だるみ」になるため、途中菓子・冷果を提供して集中力喚起に努めた。
- ・なお、クリスマス・ハロウィン・バレンタイン等々行事の費用や食品については、別事業でその都度「寄付者」を募り実施することができた。
- ・地域の人に助けられながら本支援が実施できていることは対象生徒にも理解してもらえるよう努めた。

主な対象者

経済的困窮家庭の子ども



「学習支援の様子」



「ハヤシライスとサラダ」

事業の成果

事業名にあるように、休憩中の「小夜食」は外せない。「学習支援室に向かう時まで、親が帰っていない」「部活帰りで食べてない」など、お腹を空かせたままやってくる生徒がいるので「小夜食は外せない」と決心して始めたが、毎回続けるには財力がなく、余剰食料を食材にすると、どうしてもメニューが偏ってくるのが悩みであった。「地域の力」をお借りして「地域の子ども」として皆さんに育てていただけることが、子どもたちにとっても「自分だけで生きているのではない…支えあい」なのだとかかってもらえてよい。本助成はそのことを実感できるよい機会と実感している。施しでなく、自然に続けられることがさらなる成果と考える。また、子どもたちの中に「まだ小夜食が残っているなら家に持って帰りたい」と家にいる母や弟妹の心配をする生徒がいる。遠慮したり、プライドがあって言えなかった子が欲しいと言えることがさらに素晴らしいと思える。

「たんぽぽ薬局」へのメッセージ

本助成のほかに、近辺のたんぽぽ薬局様の店舗から消費期限が近付いている食品等を頂戴しています。子どもたちも楽しみにしており、「おかあさんにあげよ!」「おばあちゃんのおみやげ!」と喜んでます。家族愛を感じてうれしいひと時です。



「特に気をつけていることは野菜嫌いをなくすこと」



③ 一般社団法人SEIMA137 (関市)

助成事業名 児童自立生活援助事業

助成額 60,000円(使途:食材購入費)

事業の内容

毎週金曜日に、再生させた古民家で、大人も子どももどなたでも参加できる子ども地域食堂。

食事をするだけでなく、コミュニケーションを取ることで、子育ての悩み相談など。子育てに役に立つ動画などの上映会。コミュニケーションスキルをアップするための、気持ちのカードを使ったワークショップや、地域の孤立した方とつながるためのコミュニケーション講座なども合わせて開催した。

主な対象者

地域の子ども、子育て中のお母さんなど。



「みんなで食事をしている時の写真」

事業の成果

子育てで悩んでいるお母さんの相談に乗れたこと。

学校で支援級に行くように進められても、そこにうまく馴染めず、居場所を求めている親子の相談など。一緒に食事をし、映画を観たり、コミュニケーションを深めることで、親子共に安心が得られ、安心して学校に行けるようになったり、安心して家で過ごせるようになったり、フリースクールの子どもたちとも友達になれたり、何よりもお母様たちが元気になられたことがとても良かった。

「たんぽぽ薬局」へのメッセージ

この度は、活動をご支援いただき、誠にありがとうございました。孤食の時代にあり、子どもたちが皆で楽しく食事をする機会がなくなってきた中で、子どもたちと、子育て中のお母様たちは本当に喜んでおられます。少しでも安心な子ども食堂を継続する後押しをしていただき、心より感謝申し上げます。



【C】[2]こくみん共済coop子ども成長基金「交流会開催助成」

全3件 合計250,000円

① NPO法人つなぐプロジェクト (笠松町)

助成事業名 音と笑顔でつながるファミリー交流事業

助成額 50,000円(総事業費52,400円)

事業の内容

- 親子で参加できる音楽会を企画し、下記のように実施した。
- ・8月16日(水)講師打ち合わせ…開催予定日の決定
 - ・会場確保が困難になり、建設中のよつば保育園を部分的に使用可能な状態に対応してもらう事で了解が得られた。
 - ・10月23日(月)広告の開始、参加者募集開始
 - ・12月2日(土)開催 ヴァイオリン、ピアノで5曲演奏した。
 - ・参加人数27組 大人35人、子供27人
(ボランティア応援サポーター10組)

参加者・対象者の様子

- ・子どもが知っている曲もあり、曲に合わせて歌って楽しそうにしており、参加できて良かったです。本物の音楽を聞ける機会はなかなかないので、子ども達にとってはもちろん、大人もゆったりとした時間を楽しめました。広々とした空間で小さい子も飽きずに、過ごせました。ぜひ来年も開催して欲しいです！(3歳、1歳のお子様と参加の方)
- ・あんなに近くで本物の音色が聴けて感動しました。娘に聞かせられ、私まで癒されてとても心地よい気分でした。娘も演奏中も思いっきりハイハイしたり、物怖じせずに友達に触れたり、満喫していたので親としてもとても嬉しかったです。(0歳のお子様と参加の方)
- ・約30組のご家族の方が目の前で素敵に奏でられる生演奏に魅了され、とっても温かく感動的な空間になりました。リズムをとりながら耳を傾ける子がいたり、じっと見つめる子がいたり、感動して涙を流す保護者がいたり、素敵な時間でした。(ボランティアサポーター)

事業の成果

- ・会場の確保が難航し、告知が遅くなってしまったので、参加者が集まるかどうか不安があったが、参加者が予想以上に多かった。
- ・空気清浄機の設置、お花(ポインセチア)の差し入れ、参加者に手渡すプレゼント(折り紙の作品、お菓子)、壁面装飾などは、全てボランティアスタッフが手作業で個々のイメージで準備対応でき、一つの目標の達成(成功させたい!)に向き合い、一丸となっていたこと。この実感が大きな達成感でした。

「こくみん共済coop」へのメッセージ

プロへの謝金(ヴァイオリニスト、ピアニスト)が高額かもしれませんが、私たちは本当の良さを、子ども達に伝えたいと思いました。そしてやはり結果は良かった！です。コロナ禍で、思い通りにはいかない中でも、このご成りは大切にしていきたいと考えています。ありがとうございました。



② 岐阜県里親連合会 (岐阜市)

助成事業名 里親・里子及び児童養護施設等との交流事業

助成額 100,000円(総事業費198,937円)

事業の内容

日時;2023年11月19日(日) 11:30~14:00

場所;湯の華アイランド 湯の華BBQ場

参加者;63人(里親37人、中高生6人、小学生5人、乳幼児15人)

県内すべての地域の方の参加とはならなかったが、近隣の地域の里親家庭は参加された。新しい里親家庭からベテラン里親家庭の参加で地域を超えて交流することができた。

参加者・対象者の様子

当初計画していた場所では行うことができず、可児市にある施設を利用した。場所的に県内全域の方に参加いただくことができなかったが、ちょっとした旅行気分であられたと話される方もおり、こどもたちもとても喜んでいて、自分で肉や野菜を焼き、普段よりたくさん食べているという子もあり、わいわいしながらBBQを楽しむことができた。

普段は、自分の近くの里親同士やママ友等と養育について話すことが多いが、今回は近くでない地域の家庭とテーブルを一緒にすることで、いつもとは違う話等で交流ができていた。こどもたちは、久しぶりに会う子や初めましての子同士で食後に走り回ったり、近くにある遊具で遊んだりして、大人もこどもも交流がもてた。

テーブルを回ってくじ引きをして、景品等を手にして一喜一憂しているこどもたちの姿があった。帰りには、同施設内の温泉に寄って楽しむことを嬉しそうに話すこどもの姿もあった。

事業の成果

- ・コロナ禍であつまることができなかったので、やっと地域を超えての交流ができた。
- ・大人もこどもも楽しむことができた。
- ・こどもの成長を共に喜べ、笑顔が見られた。

「こくみん共済coop」へのメッセージ

今回はありがとうございました。なかなか地域を超えて集まり、交流を持つことができなかつたなかで、今回のことで地域を超えて交流がもて、また年代を超えての交流も持てました。里親という特殊な子育て(養育)のなかで、互いの悩みや課題、喜び等を共有できました。

今後ともこどもの住みやすい、安心安全に成長していけるような社会になるように当会も頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



「各テーブルでの記念撮影」



③ NPO法人ほっぺの会 (岐阜市)

助成事業名 親子でワクワク遊ぼう会事業

助成額 100,000円(総事業費225,757円)

事業の内容

小学生までの親子を対象として全8事業を週末に開催した。感染症等による外出等に関する規制も和らいできており、毎月物作りを中心に自然体験なども取り入れていくことができた。

- ・7/1「苔のテラリウム制作、ふれあいの森散策」(参加者4組)
- ・8/6「森の水族館・小枝のカブトムシ制作、水戦水風船遊び」(参加者3組)
- ・9/3「木の葉を使った菜作り、古本リサイクル市、森の散策」(参加者2組)
- ・10/21「稲刈り体験・おにぎりを握って食べよう」(参加者6組)
- ・11/12「柿渋染め体験」(参加者2組)
- ・12/17「クリスマス会」(参加者4組) ・1/13「花餅作り」(参加者6組)
- ・2/10「森の雛飾り作り、森の散策」(参加者1組)
- ・3/16「クッキー缶作り・いちごのデザート作り」(参加者8組)

参加者・対象者の様子

・森の散策では、「子どもの自分でやりたい!という気持ちを尊重しながらも、親子で協力して取り組み、絆も深めることができた」と感想があった。

・稲刈りでは、お米になるまでに「こんなにも手間暇かかるんだ」と実感し、自然の恵みの有難さや1粒1粒のお米を大切に作る気持ちが養えた。

・クリスマス会では、小さなお子さまも長時間集中して参加され、3世代で観て聴いて触れて心に残る時間を過ごすことができた。

・クッキー缶作りでは、初めてお菓子作りをしたという親子も、「自分でもこんなにも美味しいものができるんだ」と喜んでた。今回「留守番の妹とパパに向けてプレゼントするんだ」と言って、慣れない文字でメッセージカードを書いていた園児のお子さまの顔がとても印象的だった。参加して喜びの声が聞けて、家族がふれあって過ごす時間が提供でき、開催してよかった。

事業の成果

- ・週末に開催ということで、家族全員で、またお父さんとお子さまとの参加など、親子や家族の触れ合いの場・時間を設けることができた。
- ・親子で四季折々の木や草花を五感を通して感じることは、何物にも代えがたい心身の栄養になった。
- ・森での制作に関しては、現地に得た資源を使って行えた。また他の回においても、地域の自然の恵みに感謝してそれらを活かし、伝統文化に触れる活動もしていくことができた。
- ・講師をはじめとして地域の方々の協力(古本、駐車場提供なども)も得られ、世代を超えた中での開催をすることができた。

「こくみん共済coop」へのメッセージ

コロナ渦で生まれ育ったお子さまと保護者に、地域の自然に触れながらの物作り体験(自己表現としても)や活動、生演奏(楽器に触れる体験)や読み聞かせ、パネルシアター、エプロンシアターといった、親子で五感を通して楽しんでいただける機会を設けることができました。参加者の皆様に家庭ではできない事を、ワクワクした気持ちで時間を過ごしていただけたら、より親子の絆を深める、様々な体験ができました。ありがとうございました。



【C】[3]東海ろうきん未来応援寄付金「広域活動助成」

全3件 合計3,000,000円

① NPO法人心をつなぐホースセラピーぐりん・はあと（本巣市）

助成事業名 生きづらさを感じている子どもやその親が居心地のよさを感じられる居場所・拠り所づくり事業

助成額 1,000,000円(総事業費1,091,290円)

事業の内容

◆(1)生きづらさを抱える子どもやその親を対象にした踏み込んだ個別支援(相談や活動)

子どもや親を対象にした踏み込んだ個別支援による居場所・拠り所づくり【実施実績】

個々の現状・特性・背景等を整理・分析し、踏み込んだ手厚い支援を行い、困り感の軽減や、支援の究極の目標である「個の変化」を大切に、解決をめざした。支援の形態は、子ども本人のみ、保護者のみ、親子。ニーズや状況によって選択していただいた。

◆(2)話題提供や対話交流による生きづらさを抱える子どもの親の居場所・拠り所づくり支援

規模、対象者・地域等の違いにより、①「おしゃべりカフェ」②「おしゃべり交流会」③「講演会&おしゃべり交流会」を行った。互いの思いを交流しあうことで「同じような思いでいる人が他にもいる」という安心感を生み出したり、悩み事や困り事を出し合い、解決の糸口を見いだしたり、子育てへの活力につなげることができた。

◆(3)生きづらさを抱える子どもや親を支援するための広域ネットワークづくり

・今年度は、これから組織として立ち上げるネットワークの土台作りを行った。年間2回、ネットワーク講演会&対話交流会を行うことができた。

◆(4)広域性という点での実績

- ①参加する人の「居住地」が本巣市以外(参加者が広域ということ)
- ・6圏域の10市町にまたがった。
- ②実施する「場所」が本巣市以外(実施場所が広域ということ)
- ・3圏域の6市町にまたがった。
- ③他市町の他団体とコラボレーションをして活動を実施する(活動の実施主体が広域になるということ)
- ④団体同士がリソースを交換しあう(リソースが広域化するということ)

冠寄付者(東海ろうきん)へのメッセージ

2年間続けて多額の助成をして頂いたことで、事業形態を整えることができました。大変感謝しています。今後の運営や活動実施の大きな弾みとなります。特に広域助成という点で、「参加者が広域であること」「実施する場所が広域であること」「他市町の団体とコラボレーションすること」「団体同士がリソースを交換し合うこと」の4つの点から、さらに広域性ということを深めることができました。

この助成は、子どもたちの未来と幸せに向けた事業を展開するための意欲に繋がるとも貴重な助成です。今後も末永く続けていただけると、「助けられる団体」がたくさん生まれ、草の根的な組織が岐阜県各地に生まれ根付いていくと思います。これからも草の根的市民活動への応援をよろしく願いいたします。



↑「おしゃべりカフェの様子」

「個別の相談の様子」→



事業の成果

さまざまな理由で生きづらさを抱えている子どもたちが急増する状況の中での活動であった。草の根的にその子どもたちが支援を受けられる場所や機会を増やすこと、そうした子育てで困り感を感じている親の負担を軽くするには、大いに貢献できたと自負している。「支援の場を得ることで救われた」という声をたくさん聞くことができた。『居場所・拠り所づくり』を行うことで、生きづらさを抱えた子どもが安心できる、自己存在感や充実感を感じられる社会づくりに寄与することに一歩ずつではあるが、近づいているように思う。

●踏み込んだ個別の支援での成果・変化・与えた影響

子どもや親の個別の相談や支援では、個々の背景を踏まえ、踏み込んだ手厚い支援により、困り感軽減や解決、新たな一歩、子育てに向かう意欲、明日への活力に繋げることができた。ほとんどの相談に対して、困りごと・悩みごと・不安ごと・迷いごとの改善に繋がった。

●親の拠り所支援での成果・変化・与えた影響

お互いに悩み事や困り事等の思いを出し合うことで「同じような思いでいる人が他にもいる」という安心感を抱き、子育てへの活力に繋がった。少人数の対話ゆえ、踏み込んだ話ができ、参加した親の満足度は非常に高かった。「子育てに関する見方や考え方が変わった」「子どもへの声かけ、接し方など、かかわり方が変化した」等の変化や成果があった。

●生きづらさを抱える子どもや親を支援するための広域ネットワークづくり

・講演者の魅力ある話題や新しい視点の刺激をもとに、支援者同士が繋がる「広域ネットワークづくり」の土台作りをすることができた。
・支援者同士が繋がることで、協力して事業を行うことができ、リソースやノウハウを相互に補い合うことに繋がった。
・親と支援者が繋がる場となり踏み込んだ個別の支援にも発展したケースもあった。

●広域性という面での成果・変化・与えた影響

・他団体とのコラボ(共同開催・共催)ができた。「子どもの未来と幸せを願う」という共有の願いのもとで、活動拠点を離れ、他市町の団体の方々とのコラボにより、互いに恩恵を受け合うことができ、個々の活動の多様性や質が向上した。
・他団体の支援者から紹介されたり、他市町の他団体のクライアントに支援の機会を提供したりすることができた。団体や支援者の方達が繋がったり、協力し合ったりする場があることで、確実に救われる子どもが増えることに期待がもてた。有効なノウハウを広げ、他地域の受益者のよりよい支援に繋げることができると期待が広がった。

② NPO法人仕事工房ポポロ（岐阜市）

助成事業名 2022年度ひきこもり調査の拡充および波及を進める事業

助成額 1,000,000円(総事業費1,016,496円)

事業の内容

ひきこもり状態にある人びとおよびその家族について、社会的関心の高まりの中、徐々に行政の窓口においても相談体制の整備が進められつつある。その中で、その背景となるこれまでの実態調査は、多くが支援者目線のものであったり、数値だけの表層をなぞったものだけであったりして、当事者の声が十分に反映されているとは言い難いという問題認識を持っている。

そのため、本事業では、ひきこもり当事者および家族へのアンケート、とりわけ丁寧なヒアリング調査の実施を中心としてその生の声を今後の施策に反映していく一助となることをめざして実施した。

昨年度は、限られた時間もあり、不十分さを残したのものになったにも関わらず発表した「調査報告書」には、各方面から思いも寄らない評価の声をいただいた。しかし、いただけ高い評価は、専門とする調査委員会の研究者メンバーの分析力によるところが大きかったことに他ならない。

それを踏まえて、2023年度は、昨年度実施した調査ノウハウを活用し、他団体でかかわっているひきこもり当事者および家族へと対象を広げ、調査を継続し、一人ひとりのストーリーに即した分析を試みた。個々のストーリーには、「個別事例」にはとどまらない「普遍性」が埋め込まれているとともに、課題ごとの焦点化では見えづらい複合性・連動性を掴んでいくことが可能になった。さしあたり急務の社会課題として問われている「8050問題」に対応するかたちで、報告することとなった。それはポポロが直面した課題でもあった。

◆実態調査委員会のメンバーは、昨年と同様に仕事工房ポポロからは中川健史(理事長)、南出吉祥(理事・岐阜大学地域科学部)、佐藤真紀(理事・社会福祉士、精神保健福祉士)の3名に加えて、伊藤康貴氏(大手前大学現代社会学部)と桑原啓氏(京都大学大学院)をお願いした。

◆個人情報の扱いに注意しながらインタビュー音声の文章化にポポロの元当事者のメンバーの協力を得た。

◆調査委員会は、計10回開催した。岐阜の委員は対面、遠方の委員はオンラインで、主に夜間に開催した。

◆インタビューは、中川が中心に11回実施した。

◆アンケートは、計500通余り発送したものの、行政機関からの返答は少なく、協力団体についてもアンケートやインタビューを依頼できるほどの関係構築ができていないことから返信は少なかった。

2023年5月 調査方針の検討と共有

2023年6月 調査項目の検討・作成

2023年6～2024年2月 インタビューの実施

2023年8月～ 順次インタビュー音声の文字化作業

2023年9月～2024年2月 調査データの共有・分析・検討

冠寄付者(東海ろうきん)へのメッセージ

本事業に助成いただき、ありがとうございます。一市民活動団体に過ぎない当法人の提案に対して、本事業を採択していただけたこと心から感謝申し上げます。本来、調査研究は研究機関や行政が行うことが多い中で、私たちもそのことに長けた専門家の助力もいただいたとは言え、本来的な調査研究にはまだまだの感もしています。しかし、本報告で記しているように、一口に「調査」と言っても、当事者を単なる「素材」にしてしまうような調査もあれば、本事業のように、実践と深く結びつき、当事者とともにある調査もあります。「目の前の課題」への対応に追われがちな地域の市民活動に対し、その活動が有する社会的意義を可視化し、社会に発信していくことは、今後いっそう求められてくる課題だと思われまふ。小さな地域の活動の中に、日々、ドラマが生まれています。残念ながら、そうした取り組みは社会の表舞台に登場することなく消えてしまうことが少なくありません。ぜひそうした取り組みを背後からバックアップしていただけることを期待するものです。

「社会的な所属を持っていない人
およびその家族の実態調査」報告書

2024年3月31日
特定非営利法人仕事工房ポポロ

報告書は、ひきこもり当事者・ご家族へのアンケートと、当事者の方へインタビューを元に作成し、総ページ数は96ページとなった。県内のひきこもり支援関係課に配布予定。



事業の成果

本事業がめざす課題解決(ひきこもり状態にある当事者および家族の実態を把握し、当事者・家族が求める支援を整備していくこと)は、今回まとめた報告書を用いて関係各所に働きかけていくこと、それによって支援窓口や相談窓口、支援団体の中での支援の質的な向上を伴って意味を成すものである。その点では、報告書自体だけでは、その入り口の部分にしかならないものである。しかし、本事業を実施する中で見えてきた成果も少なからずあることも記しておく必要がある。

1.インタビューという新たなアプローチ手法の有効性

今回の調査対象者は、当団体と何らかの関わりがある人であり、まったくの孤立状態にある人ではないという限界はあるものの、そうであってもこれまで「居場所」利用やニュースレター、手紙、ハガキでのつながりの中で、改めて詳細をお聞きすることはなかった。その中で「インタビュー」という形式で「声が聴かれる」ことは、支援する、されるという「上下」関係から「フラットな」関係の中で聴きとることができ、それが当事者・家族にとって貴重な吐き出しと整理の機会になったという効果が見出せた。

2.自身の経験が「意味のあるもの」だとされること

本調査は当事者の「聴かれる」という行為によって、それが単に記録されるだけではなく、「自身の経験が他の誰か(さらには今後の地域社会)の役に立つ」という積極的な社会的意義を有しているという点も大きい。本調査に応じてくれた当事者・家族の方々は、単なる「対象」ではなく、調査を通して社会に訴えかけていく活動の重要なパートナーである。実際、本調査に応じてくれた当事者本人が、インタビューとは別建てで長文の体験記(報告書末尾に掲載)を寄せてくれたり、インタビューだからという理由で初めてコンタクトが取れた人や多くのインタビューでも終了後に期待の声が寄せられることが見受けられた。社会の中での少数派の経験が実は社会にとって意味のあるものであるという当事者本人の反転の契機が、本調査によってもたらされたと言える。

3.支援現場での「いま」を明らかにできたこと

本調査中に、8050問題の具体的に深刻な事実と直面することになった。すでに多くは、関係者にとってはごくあたりまえのことに過ぎないかもしれないが、それが個人的な感触・体感ではなく、具体的な事実として表現できたことにより、今後、多方面で急ぎ具体的な施策として反映されるべき材料として提供できたと考える。本調査で見えてきた知見が、他の現場での実感値とどの程度整合性があるのかは、今後の検証課題となるが、現場での「いま」が言語化され可視化されることにより、何気なくやっている活動に何が不足しているのかが明らかになり、今後の支援の改善および更なる発展にも寄与することにつながると期待できる。

③ NPO法人飛驒高山わらべうたの会 (高山市)

助成事業名 生活困窮家庭に対する中学校・高校の制服譲渡事業

助成額 823,000円(総事業費833,074円)



事業の内容

- ①市民活動団体「あんきや」に保管してあった制服を回収し、丹生川支所へ移した。
- ②昨年度以前の活動を知った方からの「制服をいただきたい」という個別の依頼に対応した。
- ③高山市内の中学校制服と、飛驒地域の高校の制服を募集と譲渡会のお知らせも発信した。(寄付制服46件)
- ④制服が最新のデザインのものであるかを再確認・修理箇所を確認した。
- ⑤小学6年生を中心に制服譲渡会を開催した。(親子24組)
- ⑥譲渡会以降も「制服をいただきたい」または、「制服を寄付したい」という相談には個別に対応した。(親子5組、寄付制服8件)
- ⑦11月にご寄付いただいた制服は、クリーニング済みの状態であったが、「あんきや」から引き継いだ制服を選んだ方はクリーニング後にお渡した。
- ⑧制服のウエストや丈など、サイズ調整が必要な物はお直し後にお渡した。
- ⑨第二回チラシ配布 令和6年2月26日～3月15日を引き取り強化期間として、高山市内の中学校制服と、飛驒地域の高校の制服を再度募集した。同時にSNSを使用して制服募集と譲渡会のお知らせも発信した。(寄付制服50件)
- ⑩令和6年度から制服が変更となる高校の情報が入った為、もう一度、最新デザインの制服かどうかを高校の制服を中心に確認した。
- ⑪3月16日高校の制服が必要となる中学3年制を中心に制服譲渡会を開催した。(親子18組)
- ⑫3月16日以降も「制服をいただきたい」または、「制服を寄付したい」という相談には個別に対応した。(親子2組、寄付制服8件)
- ⑬3月にご寄付いただいた制服は、クリーニング済みの状態であったが、「あんきや」から引き継いだ制服を選んだ方はクリーニング後にお渡した。
- ⑭制服のウエストや丈など、サイズ調整が必要な物はお直し後にお渡した。

冠寄付者(東海ろうきん) へのメッセージ

ぎふハチドリ基金の助成をいただき誠にありがとうございました。
「めぐる制服プロジェクト」は、どんな子どもでも安心して学びの場に通える環境作りを目的としております。
この事業により、経済的不安を抱える方からは「本当に助かりました」と感謝の言葉を沢山頂きました。保護者さんはもちろんですが、制服にそっと袖を通した時の、子ども達の笑顔を忘れることができません。
親子の幸せそうな顔を見ることができたのは、広域活動助成をいただいたおかげと感謝申し上げます。

事業の成果

今回の「めぐる制服プロジェクト」では、「どんな子どもも安心して学びの場に通える環境作り」を地域一体となって構築する事を目的とした。

飛驒圏域の平均所得は岐阜県内の他市町村と比較してかなり低く、コロナ禍以降、私どもの団体にも「制服を揃えられない」という相談が多く寄せられていた。

今までは、市民活動団体「あんきや」と協力し、相談頂いた方に個別対応していたが、この制服リサイクル事業を、広く飛驒圏域に周知していく為に広域活動助成を活用した。

チラシには白川村や、下呂市、飛驒市の後援名義も頂き、広く飛驒圏域に配布することで活動の周知をした。

譲渡会当日には、高山市の家庭はもちろん、飛驒市、下呂市の方もお子さんの制服を選びに来られていた。また、譲渡会后に報道で活動を知った下呂市の保護者からは「他で譲っていただいた制服が小さくて着られず困っています」と連絡をいただいた。その方は「子どもが4人もいるので、こういう取り組みをしていただけて本当に助かりました。下呂市でも同様の活動が広まってほしいです」とおっしゃっていた。

3月の譲渡会の様子が岐阜新聞に掲載され、その電子版Yahoo! ニュースになった事により、事業終了後も「今からでも制服を見せていただけませんか」「来年度以降も開催の予定はありますか」と多数の問合せを頂いている。

今回、制服を寄付して下さった方は「娘が卒業しても捨てられずにタンスで大切に保管していました。綺麗に着ていた制服なので必要な方に使っていただけたら嬉しいです」とおっしゃってくださった。そして、クリーニング店の方からは「こういう活動はなかなかできる事じゃない。学校の先生から『やってあげたくてもできない』と聞いたことがあるので、がんばってください」と応援のお言葉をいただいた。

広く協力を呼び掛けたことで、飛驒圏域全体で、制服のリサイクルについて意識を高める第一歩となったのではないかと考えている。

今年度の活動から、広い高山市内の支所地域では活動を継続するための人材を確保する事ができた。
事業を今後も継続していく事で、飛驒圏域に少しずつ制服リサイクルの輪が広がっていく事を感じている。



「丹生川支所の制服保管場所」



「集まった制服を丹生川支所へ運ぶ様子」

※177,000円分は【C】[3]に申請し、[A-1]事業助成で採択された「一般社団法人よだか総合研究所」および「NPO法人つむぎの森」の事業に充てました。



みんなのハチドリ

minnano hachidori

あなたの思いを届ける 寄付支援ポータルサイト

「みんなのハチドリ」は、岐阜県内の子ども、若者、子育て家庭の支援に取り組む団体とみなさんをつなぐ窓口です。
地域貢献をお考えの企業、個人の皆さまはぜひご活用ください。

「みんなのハチドリ」のポイント

- 子ども・若者・子育て支援団体の詳細情報を一覧できる
- 寄付やボランティアを希望する支援団体に直接アクセス
- 岐阜県への地域貢献、新しいつながりの創出
- 10年以上の実績がある、ぎふハチドリ基金が運営
- 厳しい基準を満たした支援団体のみをご紹介します



選んで直接支援できる

企業・個人

- ・社会貢献活動に興味がある
- ・SDGsに取り組みたい
- ・ボランティア活動がしたい
- ・子ども、若者、子育て家庭の応援がしたい

みんなのハチドリ

寄付支援ポータルサイト

活動を知ってもらえる

市民活動団体

- ・活動を知ってもらえて、応援してもらえる
- ・活動の継続につながる



支援する団体を探して寄付ができます。

興味・関心をお持ちになった団体の詳しい情報をご覧ください、各団体まで温かいご支援をいただきますようお願いいたします。

支援対象で探す

- 子ども
- 若者
- 子育て家庭

活動内容で探す

- 居場所
- 学習支援
- 子ども食堂
- 食料支援

アクセスはこちら

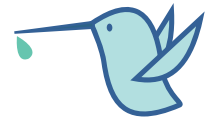


↑目的別やフリーワードで探すこともできます。

<https://minnano-hachidori.jp/>



助成団体から、ぎふハチドリ基金にいただいた メッセージの一部をご紹介します



利用者負担軽減助成プログラムは引き続き
継続して頂きたいです。

ぎふハチドリ基金のおかげで岐阜県内に
たくさんの草の根活動をされている方が
いるということを知れたことは、とても
励みになりましたし、勉強になりました。
ありがとうございました。

これからも、社会課題に対して、助成して
いただける企業などを増やし、共に社会全
体でこどもたちの健全な育成のための仕組
みづくりをどうぞ、宜しくお願い致します。

人件費がでるといことで、時間を取られ
る作業をするメンバーに仕事を頼みやすい
ものでした。丁寧にフォローしていただ
けたことも感謝いたします。助成金を取るこ
とになれていないのですが、フォローのお
かげで初心者でもチャレンジする
ことが出来ました。



使いやすい助成プログラムです。初心者
でも、理解しやすい内容や丁寧なご指導
も頂けて、有りがたいです。申請書作成
の際は記入の仕方なども丁寧に教えてい
ただきました。ありがとうございました。

お金をいただき、報告書を提出させるだけの
助成金しか受けたことがなく、今回のぎふハ
チドリ基金では人とのつながり、活動の広がり
を考えるきっかけになりました。ほかの助
成金にもチャレンジしたいと思いました。

自己資金はなく、メンバーも少なく不安が
ありましたが、助成金を頂いた事で、新た
にこの事業にお手伝いいただく方を募るこ
とができました。

ぎふハチドリ基金は、設立10年余り。今ではこの岐阜の市民活動にとって、なくてはならない灯のような存在になりつつあります。歩き始めの小さな市民活動に対しても、とても丁寧に対応し、団体を育てるという視点で支えてくれていると感じています。しかも、多くの助成団体が権威主義のおいを感じるのに対して、助成する、助成されるという対称的な関係を越えて、共に社会をつくる仲間という姿勢を感じることできる感覚を持つことができました。

申請のハードルが低いこと、事務手続き
が簡素なこと、報告文書が最小限で分か
りやすいことなど、ぎふハチドリ基金は
魅力がたくさんです。より多くの方々に
活用されることを願っています。

私たちがも当法人だけでなく、他の団体の活動にも触れることで、多くの刺激と感動を受け
てきました。ぎふハチドリ基金も助成を通して、私たちが感じた刺激と感動を一緒になっ
て広く社会へ発信していただけるようになることを期待します。ぎふハチドリ基金の活動
は、社会の善意を集め、その善意を社会へ広く還元していく核になる存在だから
です。今後も大きな期待を寄せていきますので、よろしくをお願いします。



私たちは市民団体として活動している当事
者団体のため、申請させていただけるもの
があるのはとてもありがたいです。そして、
交流等を通して沢山の方に出会う機会をい
ただけることも感謝しております。

収益性が無い事業なので、助成期間終了後
の事業継続について、アドバイスが
ほしいです。

交流会に参加させていただき、
とても勉強になりました。



学校支援の場があっても、残念ながら「利
用したくともそこまで行けない」「参加でき
ない!」そんな新たな課題がみえてきたの
です。その「穴」を埋めていただき利用者
を真の意味でサポートして下さい感謝です。
その必要性を誰より、何より理解してい
ただいたことに感謝です。

あなたのあたたかいご寄付により、この仕組みを支えてください

～ぎふハチドリ基金への寄付には、いろいろな方法があります～



寄付金決済システム(コングラント)



ソフトバンク「つながる募金」



東海ろうきんNPO寄付システム

詳しくは事務局に
お問い合わせ
ください。

- ・リーフレット内の振込用紙を
を利用して振り込む
- ・羽島市ふるさと納税 など

GIFU HACHIDORI FUND



ご寄付をいただいた皆さんの思いが
助成団体の活動となって、子ども・若者・子育て家庭の
もとに届いた様子を、ぜひお読みください。

認定特定非営利活動法人 ぎふハチドリ基金

〒500-8384 岐阜市藪田南 5-14-12
岐阜県シンクタンク庁舎 3F ぎふ NPO センター内
TEL 090-8736-9739 FAX 058-275-9738
Mail hachidori@gifunpo-fund.org
HP <https://gifunpo-fund.org/>

